

スタディーエックス スタイル

StuDX Style

GIGAスクール構想を浸透させ
学びを豊かに変革していくカタチ

慣れる・つながる活用事例 一括版

(令和5年12月18日時点)

"すぐにでも" "どの教科でも"
"誰でも"活かせる1人1台端末の活用シーン

慣れる
つながる
活用

各教科等
での活用

STEAM教育等の
教科等横断的な
学習

教師と子供が
つながる

子供同士が
つながる

学校と家庭が
つながる

職員同士で
つながる

GIGAに慣れる (文房具や教員として使えるようにする)

慣れる・つながる活用事例 一覧 (令和5年12月18日時点)

	カテゴリ	事例番号	事例タイトル	対象校種	URL
1	GIGAに慣れる-導入にあたって	1-①	学習環境づくり	小学校以上	https://www.mext.go.jp/studxstyle/skillup/10.html
2	GIGAに慣れる-導入にあたって	1-②	最初の指導を少人数で	小学校以上	https://www.mext.go.jp/studxstyle/skillup/2.html
3	GIGAに慣れる-導入にあたって	1-③	端末利用のルール決めと意識化	小学校以上	https://www.mext.go.jp/studxstyle/skillup/9.html
4	GIGAに慣れる-導入にあたって	1-④	はじめてのパスワード指導	小学校以上	https://www.mext.go.jp/studxstyle/skillup/1.html
5	GIGAに慣れる-導入にあたって	1-⑤	個に応じた操作スキルの支援	小学校以上	https://www.mext.go.jp/studxstyle/skillup/11.html
6	GIGAに慣れる-導入にあたって	1-⑥	短時間の積み重ねでスキルアップ	小学校以上	https://www.mext.go.jp/studxstyle/skillup/6.html
7	GIGAに慣れる-導入にあたって	1-⑦	応用的な活用は子供たちの教え合い学び合いで	小学校以上	https://www.mext.go.jp/studxstyle/skillup/14.html
8	GIGAに慣れる-導入にあたって	1-⑧	家庭と連携した児童生徒の健康への配慮	小学校以上	https://www.mext.go.jp/studxstyle/skillup/18.html
9	GIGAに慣れる-使ってみよう	1-⑨	見つけたものを撮影して紹介しよう	小学校以上	https://www.mext.go.jp/studxstyle/skillup/12.html
10	GIGAに慣れる-使ってみよう	1-⑩	デジタル付箋を使ってみよう	小学校以上	https://www.mext.go.jp/studxstyle/skillup/13.html
11	GIGAに慣れる-使ってみよう	1-⑪	画面表示の工夫	小学校以上	https://www.mext.go.jp/studxstyle/skillup/16.html
12	GIGAに慣れる-使ってみよう	1-⑫	ブラウザのブックマークをカスタマイズ	小学校3学年以上	https://www.mext.go.jp/studxstyle/skillup/15.html
13	GIGAに慣れる-使ってみよう	1-⑬	ローマ字テストとタイピング	小学校3学年以上	https://www.mext.go.jp/studxstyle/skillup/5.html
14	GIGAに慣れる-使ってみよう	1-⑭	隙間の時間を利用してタイピングカUP	小学校3学年以上	https://www.mext.go.jp/studxstyle/skillup/4.html
15	GIGAに慣れる-使ってみよう	1-⑮	毎日の記録を手軽にグラフ化	小学校3学年以上	https://www.mext.go.jp/studxstyle/skillup/17.html
16	GIGAに慣れる-使ってみよう	1-⑯	話し言葉と書き言葉の指導	小学校5学年以上	https://www.mext.go.jp/studxstyle/skillup/3.html
17	GIGAに慣れる-使ってみよう	1-⑰	スピーチ練習に音声認識	小学校5学年以上	https://www.mext.go.jp/studxstyle/skillup/7.html
18	GIGAに慣れる-使ってみよう	1-⑱	オンラインコミュニティへの投稿	小学校5学年以上	https://www.mext.go.jp/studxstyle/skillup/8.html
19	GIGAに慣れる-使ってみよう	1-⑲	デジタルドリル	小学校以上	https://www.mext.go.jp/studxstyle/skillup/19.html
20	GIGAに慣れる-使ってみよう	1-⑳	家庭でのICT端末の使い方を考えよう	小学校以上	https://www.mext.go.jp/studxstyle/skillup/20.html
21	GIGAに慣れる-使ってみよう	1-㉑	自分の情報は自分で守る	小学校以上	https://www.mext.go.jp/studxstyle/skillup/21.html
22	GIGAに慣れる-使ってみよう	1-㉒	他人の情報の扱い方を考えよう	小学校3学年以上	https://www.mext.go.jp/studxstyle/skillup/22.html
23	GIGAに慣れる-使ってみよう	1-㉓	コミュニケーションツール(チャット等)の設定の工夫と指導	小学校以上	https://www.mext.go.jp/studxstyle/skillup/23.html
24	GIGAに慣れる-使ってみよう	1-㉔	整理した情報をもとに自分自身を振り返る	小学校3学年以上	https://www.mext.go.jp/studxstyle/skillup/24.html
25	GIGAに慣れる-使ってみよう	1-㉕	ICT端末とノートを組み合わせた活用	小学校3学年以上	https://www.mext.go.jp/studxstyle/skillup/25.html
26	教師と子供がつながる	2-①	家庭学習カードのオンライン化	小学校3学年以上	https://www.mext.go.jp/studxstyle/teacher-student/2.html
27	教師と子供がつながる	2-②	「朝ノート」で健康観察	小学校3学年以上	https://www.mext.go.jp/studxstyle/teacher-student/1.html
28	教師と子供がつながる	2-③	取組状況をすばやく把握して個別サポート	小学校以上	https://www.mext.go.jp/studxstyle/teacher-student/4.html
29	教師と子供がつながる	2-④	自分だけのスライドと共有スライドの使い分け	小学校2学年以上	https://www.mext.go.jp/studxstyle/teacher-student/3.html
30	教師と子供がつながる	2-⑤	翻訳機能を使ってサポート	小学校以上	https://www.mext.go.jp/studxstyle/teacher-student/5.html
31	教師と子供がつながる	2-⑥	中学校教師による小学校の学習の遠隔支援	小学校以上	https://www.mext.go.jp/studxstyle/teacher-student/6.html
32	教師と子供がつながる	2-⑦	連絡帳を書こう	小学校以上	https://www.mext.go.jp/studxstyle/teacher-student/7.html
33	教師と子供がつながる	2-⑧	学びの足跡を共有	小学校以上	https://www.mext.go.jp/studxstyle/teacher-student/8.html
34	教師と子供がつながる	2-⑨	部活動連絡のオンライン化	中学校以上	https://www.mext.go.jp/studxstyle/teacher-student/9.html
35	教師と子供がつながる	2-⑩	ノートのデジタル化で、即時のフィードバック	小学校以上	https://www.mext.go.jp/studxstyle/teacher-student/10.html
36	教師と子供がつながる	2-⑪	共同編集で進捗を見える化	小学校以上	https://www.mext.go.jp/studxstyle/teacher-student/11.html
37	教師と子供がつながる	2-⑫	動画コンテンツの視聴	小学校以上	https://www.mext.go.jp/studxstyle/teacher-student/12.html
38	教師と子供がつながる	2-⑬	短時間の動画コンテンツを共有	小学校以上	https://www.mext.go.jp/studxstyle/teacher-student/13.html
39	教師と子供がつながる	2-⑭	MEXCBT(メクビット)の活用	小学校以上	https://www.mext.go.jp/studxstyle/teacher-student/14.html
40	子供同士がつながる	3-①	授業の導入でひな形学習カード配信	小学校5学年以上	https://www.mext.go.jp/studxstyle/students/1.html
41	子供同士がつながる	3-②	付箋操作のオンライン化	小学校5学年以上	https://www.mext.go.jp/studxstyle/students/5.html
42	子供同士がつながる	3-③	アウトプットを共有して互いのよさを発見	小学校以上	https://www.mext.go.jp/studxstyle/students/10.html
43	子供同士がつながる	3-④	振り返り活動のDX	小学校3学年以上	https://www.mext.go.jp/studxstyle/students/6.html
44	子供同士がつながる	3-⑤	チャット機能で情報共有	小学校3学年以上	https://www.mext.go.jp/studxstyle/students/3.html
45	子供同士がつながる	3-⑥	共同編集で学習のまとめを作成	小学校以上	https://www.mext.go.jp/studxstyle/students/9.html
46	子供同士がつながる	3-⑦	コメント機能を活用した学び合いの活性化	小学校3学年以上	https://www.mext.go.jp/studxstyle/students/4.html
47	子供同士がつながる	3-⑧	いろいろな意見を出し合って互いの考えを深めたり広めたりしよう	小学校以上	https://www.mext.go.jp/studxstyle/students/8.html
48	子供同士がつながる	3-⑨	カレンダーで予定の共有	小学校以上	https://www.mext.go.jp/studxstyle/students/2.html
49	子供同士がつながる	3-⑩	オンラインで学校の外とつながろう	小学校以上	https://www.mext.go.jp/studxstyle/students/7.html
50	子供同士がつながる	3-⑪	作成スライドを分担した後で協働的に解決	小学校5学年以上	https://www.mext.go.jp/studxstyle/students/11.html
51	子供同士がつながる	3-⑫	児童会・生徒会活動の共同作業に活用しよう	小学校5学年以上	https://www.mext.go.jp/studxstyle/students/12.html
52	子供同士がつながる	3-⑬	グループで話し合ったことを記録しておこう	小学校以上	https://www.mext.go.jp/studxstyle/students/13.html
53	子供同士がつながる	3-⑭	「〇〇調べ」をひな形カードで蓄積	小学校3学年以上	https://www.mext.go.jp/studxstyle/students/14.html
54	子供同士がつながる	3-⑮	「1人1シート」を相互参照	小学校以上	https://www.mext.go.jp/studxstyle/students/15.html
55	子供同士がつながる	3-⑯	振り返り活動で相互参照	小学校以上	https://www.mext.go.jp/studxstyle/students/16.html
56	学校と家庭がつながる	4-①	保護者へのお手紙	小学校以上	https://www.mext.go.jp/studxstyle/school-home/1.html
57	学校と家庭がつながる	4-②	学級通信を通じた家庭との情報共有	小学校以上	https://www.mext.go.jp/studxstyle/school-home/4.html
58	学校と家庭がつながる	4-③	個人懇談日程の希望調査をオンライン化	小学校以上	https://www.mext.go.jp/studxstyle/school-home/2.html
59	学校と家庭がつながる	4-④	懇談会における対面とオンラインのハイブリッド化	小学校以上	https://www.mext.go.jp/studxstyle/school-home/3.html
60	学校と家庭がつながる	4-⑤	プレゼンテーションを動画配信してみよう	小学校5学年以上	https://www.mext.go.jp/studxstyle/school-home/5.html
61	学校と家庭がつながる	4-⑥	欠席連絡をデジタル化	小学校以上	https://www.mext.go.jp/studxstyle/school-home/6.html
62	学校と家庭がつながる	4-⑦	個人面談のオンライン化	小学校以上	https://www.mext.go.jp/studxstyle/school-home/7.html
63	学校と家庭がつながる	4-⑧	保護者と共同編集体験	小学校以上	https://www.mext.go.jp/studxstyle/school-home/8.html
64	職員同士がつながる	5-①	まずは教員がスキルアップ	小学校以上	https://www.mext.go.jp/studxstyle/teachers/8.html
65	職員同士がつながる	5-②	職員会議のペーパーレス化	小学校以上	https://www.mext.go.jp/studxstyle/teachers/1.html
66	職員同士がつながる	5-③	データ共有の様々なメリット	小学校以上	https://www.mext.go.jp/studxstyle/teachers/6.html
67	職員同士がつながる	5-④	業務の情報共有にグループチャットを活用	小学校以上	https://www.mext.go.jp/studxstyle/teachers/9.html
68	職員同士がつながる	5-⑤	調査の事務作業を効率的に	小学校以上	https://www.mext.go.jp/studxstyle/teachers/4.html
69	職員同士がつながる	5-⑥	離れていてもクラウドを活用して情報共有	小学校以上	https://www.mext.go.jp/studxstyle/teachers/2.html
70	職員同士がつながる	5-⑦	授業研究会におけるクラウド活用	小学校以上	https://www.mext.go.jp/studxstyle/teachers/3.html
71	職員同士がつながる	5-⑧	端末を使った授業の相互参観	小学校以上	https://www.mext.go.jp/studxstyle/teachers/5.html
72	職員同士がつながる	5-⑨	クラウドを活用した職員研修の質の向上	小学校以上	https://www.mext.go.jp/studxstyle/teachers/7.html
73	職員同士がつながる	5-⑩	教師同士、教師と指導主事がつながるプラットフォーム	小学校以上	https://www.mext.go.jp/studxstyle/teachers/10.html

学習環境づくり

■校種・学年 : 小学校以上

■活用の概要 :

ICT端末の導入初期は、ICT端末をどこにしまえばよいのか、机の上にどのように置いたらよいのか、といったことに戸惑いを感じる児童生徒も多い。また、それが徹底されていないが故に、学習準備に時間がかかったり、落として破損させてしまったり、さまざまなトラブルも発生した。

保管方法や学習環境を整えることは、よりよい学習活動を進めていく上で、とても大切な要素である。そこで、児童生徒の発達段階に応じて、望ましいICT端末の使い方について整理し、児童生徒と共有した。

また、ICT端末を使っているうちに、画面に目を近づけすぎたり、姿勢が崩れてきたりする児童生徒が見られたため、正しい姿勢の掲示物も作成した。

- ① 発達段階や児童生徒の実態に応じて、学習環境を検討する。
- ② 学習環境についての掲示物を作成して掲示する。

■準備するもの :

- ・学習環境についての掲示物

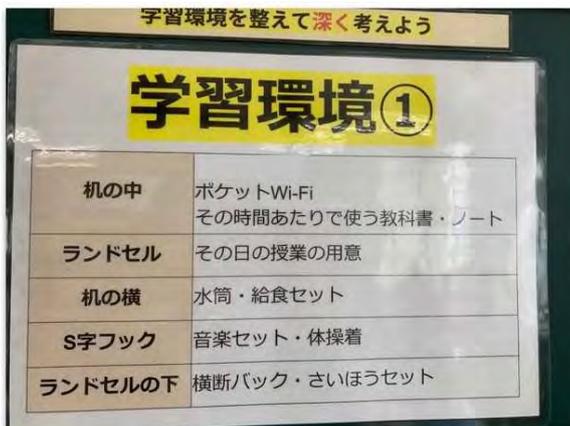
児童生徒の実態から望ましい学習環境について検討



パッと見てわかる掲示物を作成



ICT端末環境の習慣化



学習に取り組みやすい環境をつくるために、机の中に入れるもの、机の上に置く物の配置などを統一した。また、健康面への配慮から正しい姿勢でICT端末を使えるようにしている。これらを掲示物にして、教室に掲示している。

■アドバイザーからのコメント

学習環境をある程度統一しておくことで、児童生徒の学習への集中力も高まります。

また、学年や学校全体で統一しておくこと、担任が変わっても児童生徒は戸惑いを感じません。発達段階や児童生徒の実態に応じて環境を検討するとよいでしょう。

最初の指導を少人数で

■校種・学年 : 小学校以上

■活用の概要 :

ICT端末の操作方法をクラス一斉に指導するのは大変で、対応するには複数の教師が必要となる。その大変さを解消するために、基本的な操作を休憩時間を活用して指導していった。児童生徒と教師が、共にICT端末の基本的な使い方についての意識を高める雰囲気生まれた。

○指導する内容

- ・ログインする
- ・共有フォルダを表示し、アクセスする
- ・コメントを投稿する
- ・ログアウトする

○運営について

- ① 事前に、誰が参加するのか各クラスで決めてもらい、担当が集約する。
- ② 参加人数分のICT端末とアカウント情報カードを準備する。
- ③ 体験する。

これをくり返し、クラス・学年全員が体験できるように行った。
(体験をしたメンバーは記録しておく)

■準備するもの

- ・人数分のICT端末
- ・アカウント情報カード
- ・操作マニュアル

休みの時間の
指導



基礎的スキルの
向上



ICTを介した
学び合い



20分の休み時間で、1クラス5名×4クラス=20名を教師2名で指導した。操作が得意な児童生徒や先に操作ができた児童生徒が、まだできていない児童生徒に操作方法を教えていた。上手に指導していくことで、自然と教え合う雰囲気がつくれる。教え合いの風土は、一斉指導のときにも生きる。

■アドバイザーからのコメント

休み時間等の短時間であっても、簡単な操作ならいくつか教えることができます。操作ができる児童生徒を少しずつ増やしていけば、一斉指導のときに何かと助かります。

また、この指導をしていく中で、どのように使い方を教えていくと効率が良いのか、児童生徒はどこで困るのかななどの様子が具体的に分かるので、一斉指導の際に役立てることが出来ます。



- ・ログインイン
- ・ドライブを表示する
- ・学習支援ソフトに参加
- ・コメントを投稿
- ・ログアウトをハンズオン。

端末利用のルール決めと意識化

■校種・学年 : 小学校以上

■活用の概要 :

ICT端末を使うといろいろなことができるため、校内で使うに当たりルールを決める必要が出てきた。教員が一方的にルールを決めるのではなく、児童生徒と一緒に考えながら、なぜルールが必要なのか、どのようなルールが必要なのかを中心に話し合いを行った。

学級で決まったルールは、教室内に掲示したり、デスクトップ画面に設定したりして、常に意識できるようにしている。

- ① ICT端末の利用ルールを学級で話し合っで決める。
- ② ルールを掲示したり、デスクトップ画面に設定したりして意識化する。
- ③ ルールを守って、ICT端末を利用する。

■準備するもの :

- ・学級で話し合っで決めたルール

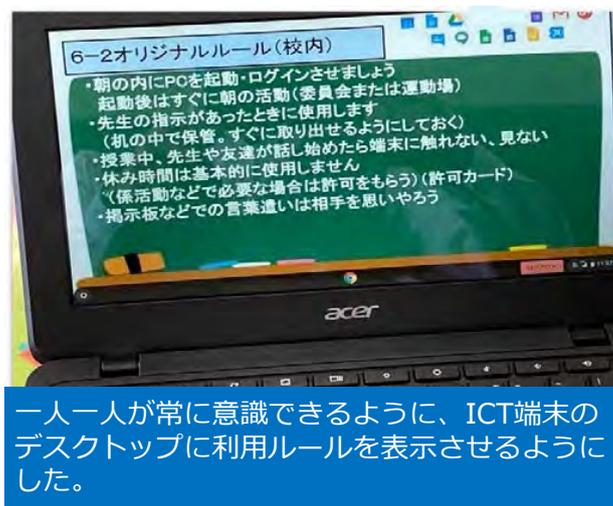
端末の利用ルールを
クラスで話し合う



教室壁面やデスクトップに
掲示して意識化



問題があればその都度
話し合っで決める



一人一人が常に意識できるように、ICT端末のデスクトップに利用ルールを表示させるようにした。



「係活動などで休み時間にも使いたい！」という意見から作成された「許可カード」

■アドバイザーからのコメント

ICT端末を正しく、安全に利用するためには、ある程度のルールが必要になってきます。その際、教師が一方的に決めるのではなく、児童生徒と話し合っで、どのようなルールが必要なのかを考えさせるとよいでしょう。

また、ルールを意識できるように、自分たちで決めたルールをいつも見えるようにしておく工夫も参考になります。

はじめてのパスワード指導

■校種・学年 : 小学校以上

■活用の概要

1人1台のICT端末とクラウドのIDを配布するタイミングで、パスワードに関する指導を行った。

パスワードとは何か、なぜ設定する必要があるのか、失くしたり忘れたりしたらどうになってしまうのか…、などパスワードの概念を分かりやすくイメージできるように教師自作のプリントを用意し、児童生徒がパスワードの大切さについて考える時間を設定した。また、キーボード上の記号を分かりやすく指導するための支援プリントの準備を行った。

■準備するもの：

- ・ICT端末
- ・キーボードの写真
- ・ワークシート「パスワードを考えよう」

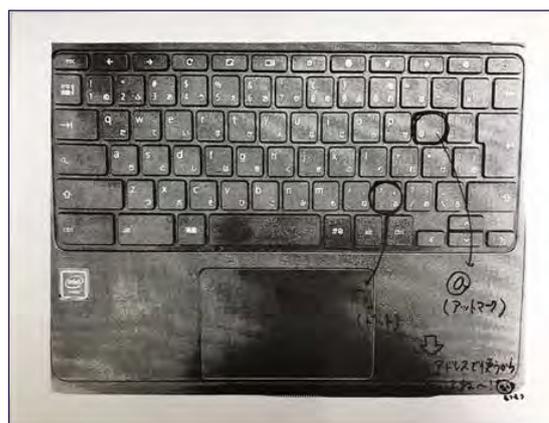
パスワードに関する学び 自分のパスワードを考える活動



ICT端末利用上の基本的なルール・ 基本的な情報セキュリティの理解

パスワードを考えよう

<p>いっしょにICT端末を使いましょう!!</p>	<p>じゃあ、みんなのアカウントを作らないとダメだね!</p>	<p>名前()</p>
<p>アカウントとは…?</p> <p>ID ……住所 パスワード……かぎ</p> <p>パスワードをつくる時のひそひそ!</p> <p>① ばれない暗号をつくる!</p> <ul style="list-style-type: none"> * アルファベットと数字を混ぜる! * 長めのものにすると! <p>② 人に絶対に教えない!</p> <p>教える=家のかぎとわけておいてほしい!!</p>	<p>パスワード</p> <p>(小文字) (8文字以上・アルファベットと数字を混ぜる)</p> <p>1 _____</p> <p>2 _____</p> <p>3 _____</p>	



「アカウント」、「パスワード」を初めて指導する際に、「アカウント」は住所、「パスワード」は鍵という例えを使いながら説明した。パスワードを他人に教えることは、家の鍵を渡すことと同じだと指導した。

児童生徒が記号入力等をしやすくなるように、キーボード部分を写真に撮り、そこに直接書き込むようにして、記号等の説明を行った。児童生徒は手元でプリントを見ながら入力できるので、有効な支援となった。

■アドバイザーからのコメント

発達段階に応じて、アカウントやパスワードを分かりやすく説明するための工夫が必要になってきます。学年を問わず、アカウントもパスワードも他人に教えてはならないこと、自分でしっかり管理する必要があることを指導していくことが必要です。

イラストや身近な例えを使うことで、児童生徒にとって理解しやすいものとなります。また、キーボード入力に慣れるまでは、視覚的な支援が有効です。

個に応じた操作スキルの支援

■校種・学年：小学校以上

■活用の概要：

ICT端末の操作スキルは個人差が生じやすい。そこで、操作方法を記した紙をICT端末に貼り付け、いつでも参照できるようにしている。操作を習得したら紙を剥がす。個に応じた支援を行うことで、どの児童生徒も安心して学習に取り組めるようにしている。

- ① 操作方法を記した紙を作成する。
- ② 支援が必要な児童生徒のICT端末に貼る。
- ③ 操作を習得したら紙を剥がす。

■準備するもの：

- ・ICT端末の操作方法を記した紙（よく使う機能や便利な操作方法に絞る）

ICT端末の操作方法
を記した紙を作成



支援が必要な児童生徒の
ICT端末に貼る



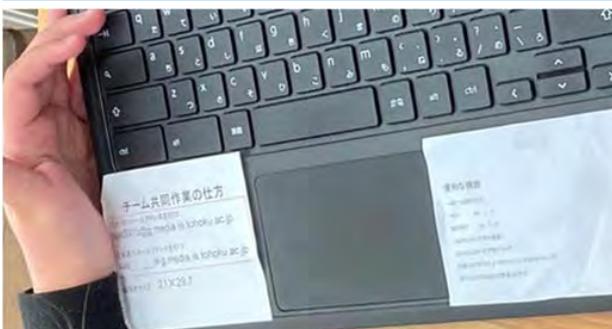
操作を習得したら
紙を剥がす



ログイン方法やショートカットキーなどを記した紙を作成して希望する児童生徒のICT端末に貼り、手元ですぐに参照できるようにする。



操作を習得して紙が必要なくなったら、剥がすようにする。



■アドバイザーからのコメント

個に応じた支援策の好例です。ICT端末の操作方法をいつでも参照できるようにしておくことで、児童生徒も安心して学習に取り組むことができます。簡単なショートカットキーを覚えるだけで、学習活動の効率も大幅に向上します。

ICT端末に貼り付けた紙を剥がすタイミングも児童生徒自身に任せるとよいでしょう。

短時間の積み重ねでスキルアップ

■校種・学年 : 小学校以上

■活用の概要 :

キーボード入力やICT端末の操作方法、各種ソフトの使い方などの練習を、朝の時間や隙間の時間を使って行っている。

全校的な取組として、全職員が関りながら実施することで、児童生徒のICT端末の操作スキルを高めることができた。

■準備するもの :

- ・タイピングソフト（ブラウザ上で無償利用可能）
- ・文書作成ソフト（OS標準）
- ・プログラミングソフト（ブラウザ上で無償利用可能）

各学年で活用できそうな
スキルアップメニューを設定



帯時間で習熟



ICT端末の活用に
必要なスキルの向上

毎週1回、15分間実施。タイピング練習では、3分間で入力できる文字数を目標に設定している。5年生は80文字程度、6年生は100文字程度という目標に向けて、各自が具体的な目標を立てて取り組んでいる。

【1年生】



基本操作説明

【2年生】



基本操作習得

【3年生】



無料サイトでタイピング練習

【4年生】



無料サイトでタイピング練習

【5年生】



無料サイトでタイピング練習

【6年生】



無料サイトでタイピング練習



カメラで撮影—画像貼付



画像挿入—画像編集



文書作成ソフトを活用した
学習のまとめ



プログラミングサイトで、
自己紹介のアニメーション作り

■アドバイザーからのコメント

週に1度の帯学習で、キーボード入力や基本操作を楽しみながら学ばせ、ICT活用のスキルアップを図っています。各学年で活用できそうな操作スキルの習得を学校全体で取り組むことにより、今後、教科等の学習活動の中で活用できるようにしていきます。

応用的な活用は 子供たちの教え合い学び合いで

■校種・学年 : 小学校以上

■活用の概要 :

本学級では、ICT端末の基本的な使い方について習得させてきた。

プレゼンテーションソフトを使ってお楽しみ会の企画を考えている時に、アニメーション機能はどこにあるのか、動画を挿入することはできるのか等、もっとソフトウェアを使いこなし、より良いものをつくりたいという声があがった。

そこで、操作方法の調べ方を教師がやって見せたところ、それ以後、児童生徒は応用的な操作方法を主体的にどんどん習得していった。こうなると、教師が毎回使い方を教える必要がなくなり、自ずとクラス全体にそれぞれが調べた知識が広がっていくようになった。

- ① 基礎的な使い方を教える。
- ② 応用的な使い方をしたい時に、どう調べるかを見せる。
- ③ 不適切な使い方を確認した後、可能な範囲で児童生徒に任せる。

※ 本事例における基礎は、画像やテキストの挿入等である。不適切な使い方については、ネットの画像等を勝手に使用しないことや、学習に必要なないウェブサイトは閲覧しないといったことを確認した。

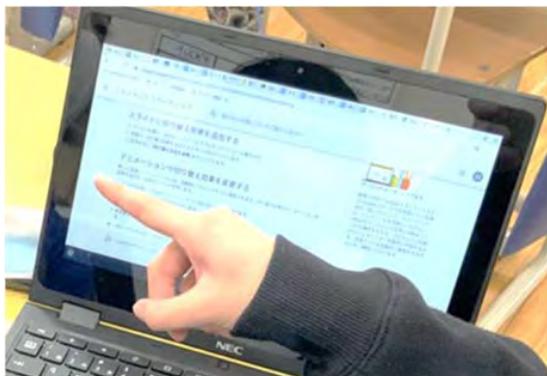
■準備するもの :

- ・プレゼンテーションソフト (OS標準)

ソフトウェアの
基本操作は一斉指導

応用的な操作方法を知りたいときの調べ方を
教師が示範

不適切な使い方を
確認した後、
可能な範囲で任せる



インターネット等で、自分に必要な知識を得るための調べ方が身に付いてきた。



インターネットで調べたことをすぐに試せるようにICT端末を並べ、友達と相談している様子。



教師が逐一指導しなくても、児童生徒が主体的に調べながらICT端末の操作スキルを高めることができている。

■アドバイザーからのコメント

ICT端末の導入初期の頃は、ソフトウェアの基本的な使い方を一斉に指導しましたが、児童生徒はあっという間に習得してしまうので、そのうち「動画も入れられそうだ！もっと使いこなしたい」と思うようになります。

この実践のように、自分が知らない応用的な使い方について、どう調べればよいのか、調べた内容が正しいのかを判断する力を身に付けさせることができれば、児童生徒はどんどん新しいことにチャレンジしていきます。ICT端末の活用の幅はさらに広がりますし、一度身に付けたことは、生涯にわたって役立つこととなります。

家庭と連携した児童生徒の健康への配慮

■校種・学年：小学校以上

■活用の概要：

児童生徒がICT端末を使う際には、学校と家庭が協働して、健康への配慮を行うことが重要である。このリーフレットでは、学校や家庭でICT端末を使うときの約束や、健康面の留意点についてまとめている。児童生徒が自らの健康について自覚を持ち、リテラシーとして習得し、生活習慣として身に付けていくことが大切である。

① タブレットを使うときの「5つのやくそく」の確認

- ・タブレットを使うときは姿勢よくしよう
- ・30分に1回はタブレットから目をはなそう
- ・ねる前はタブレットを使わないようにしよう
- ・自分の目を大切にしよう
- ・ルールを守って使おう

② 健康面に配慮したデジタル機器全般の取り扱いルールを確認

■準備するもの：

・資料「端末利用に当たっての児童生徒の健康への配慮等に関する啓発リーフレット」（文部科学省）

ICT端末を使う際の留意点を確認



学校と家庭の共通理解



健康に配慮した使い方の習慣化

ICT端末利用に関する児童生徒の健康への配慮等の啓発リーフレットで、児童生徒用と保護者用がある。チェックシートを活用することで、時間を決めてできるだけ遠くを見て目を休める等、児童生徒が自らの健康について自覚を持ち、リテラシーとして習得を図ることにつながる。

児童用リーフレット

タブレットを使うときの5つのやくそく

- タブレットを使うときは姿勢よくしよう
 - ・タブレットを見るときは、**自から30cm以上**はなして見よう。
- 30分に1回はタブレットから目をはなそう
 - ・30分に1回はタブレットの画面から目をはなして、**20秒以上**、遠くを見よう。
- ねる前はタブレットを使わないようにしよう
 - ・ぐっすりねるために、**ねる1時間前**からはデジタル機器を使わないようにしよう。
- 自分の目を大切にしよう
 - ・時間を決めて遠くを見たり、**目がかわかないよう**にまばたきをしたりして、**自分の目を大切に**しよう。
- ルールを守って使おう
 - ・**分使ったら1回休み**、学校のタブレットは**べんきょう**に關係のないこと**に使わない**など、**学校やうちのルール**を守って使おう。

保護者用リーフレット

ご家庭で気をつけていただきたいこと②

- 端末の利用時間等のルールについて
 - ・ご家庭で過ごす時間全体の中で、ご家庭で用意したデジタル機器も含めて、端末を、いつどのよう**に使**か、お子様と話し合ってください。
- <最低限、守っていただきたいこと>**
 - ・少なくとも、**寝る1時間前からは、デジタル機器の利用を控える**ようにします。
 - ・**睡眠前に強い光を浴びると、入眠作用のあるホルモン分泌が低下し、寝つきが悪くなります。**
 - ・**学校で配られた端末は、学習に關係しない目的では使いたしません。**
- 端末の安全な利用について
 - ・お子様のインターネット使用時や、スマートフォンを持たせる際には、インターネット上の犯罪等の被害者や加害者にならないよう**に**するなど、適切な指導が必要です。
 - ・フィルタリングは、お子様にとって不適切な情報へのアクセスを遮断したり、インターネットでのトラブルを防止するの**に**役立ちます。
 - ・ご家庭で用意するデジタル機器に、携帯電話会社などが提供するフィルタリングサービスを活用することについてもご検討ください。

■アドバイザーからのコメント

ICT端末は、集中して使っていると長時間の使用につながる可能性があります。長時間の使用は、心身に影響を及ぼすことがあります。そこで、体を休ませるだけでなく、過度に依存しすぎない心の健康も大切です。

児童生徒が、健康面を配慮してICT端末を使用できるよう、学校と家庭が共通理解を図りながら使用を促していく必要があります。

見つけたものを撮影して紹介しよう

■校種・学年 : 小学校以上

■活用の概要 :

教科を問わず、学習の中で課題を解決するための情報を収集したり、自分の考えを伝えたりする活動において、カメラ機能の活用機会は増えてくるであろう。

事例は、テーマに沿って、身の回りのものの写真をカメラでたくさん収集し、撮影したものの中から「これは！」というものを友達に見せながら紹介し合う活動。

この1時間の活動で、「写真を撮る」、「撮ったものの中から選ぶ」というスキルを身に付けることができた。

■準備するもの

・カメラ機能 (OS標準)

一人一人が自分の
端末を使って撮影



撮影した写真を使って
自分の考えを説明

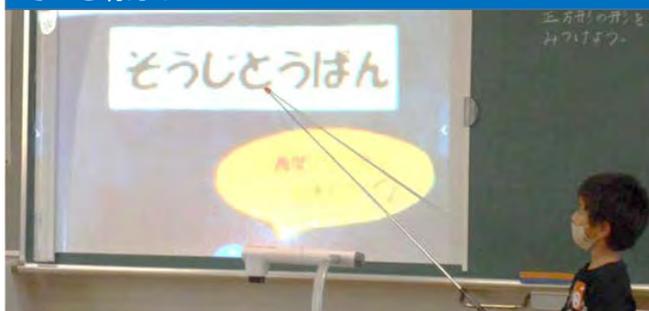


情報活用能力の
スキルアップ



教室の中から、テーマに合ったものを発見。1人1台のICT端末を手に、カメラ機能で発見した形を次々と撮影している。

自分のICT端末の画面に撮影した写真を表示させ、画面を実物投影机に映して、みんなの前で発表している様子。



選んだ理由を説明しながら、「これは！」と思う写真を紹介し合っている様子。相手を見つけてどんどん紹介し合っている。

■アドバイザーからのコメント

身の回りのものを写真に撮って紹介し合う活動を通して、情報活用能力のスキルアップを図っています。また、見つけたものを発表するだけだと、一部の児童生徒が発表し、それを聞くだけに終わってしまう児童生徒が出てしまうこともありますが、このようにICT端末を使うことで、全員が自分の見つけたものを説明することができます。

デジタル付箋を使ってみよう

■校種・学年 : 小学校以上

■活用の概要 :

デジタル付箋は、みんなで意見を出し合ったり、それを整理したりするときに大変便利な機能である。さまざまな学習活動で児童生徒が主体的に学びのツールとして使いこなすことができるよう、使い方の指導を行った。

身近なテーマを題材にして、テーマから思い付く言葉をたくさん書き出し、それを仲間分けして、どのようなグループになるのか名前を付ける活動を行った。

■準備するもの :

- ・デジタルホワイトボードソフト (OS標準)

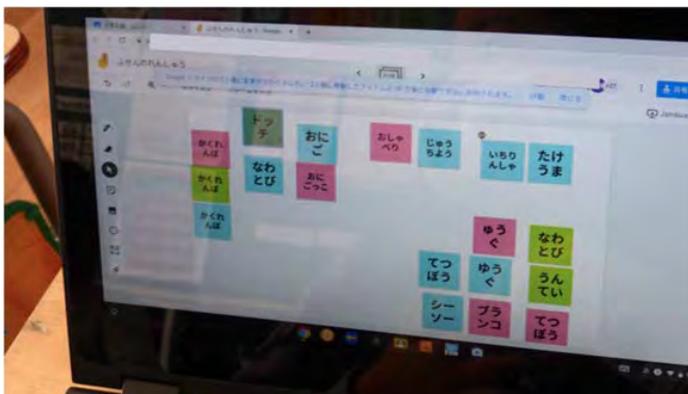
思い付く言葉を
たくさん書き出す



付箋を並び替えて
仲間分け



仲間分けした付箋に
名前を付けてまとめ

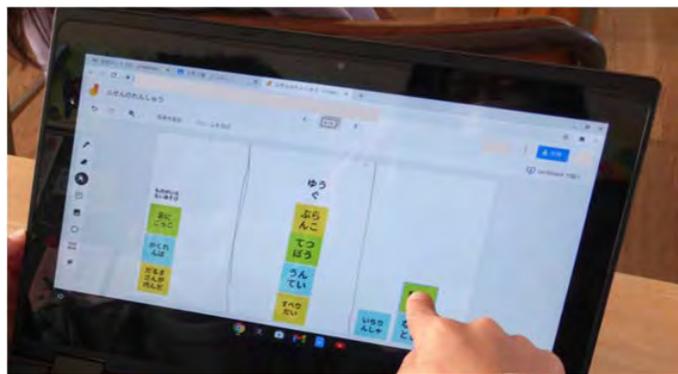


3人程度のグループで1フレーム(1枚のボード)を使って思い付く言葉をどんどん入力させる。誰がどの色の付箋を使うか決めておくと、誰が入力したのかが分かり、便利である。

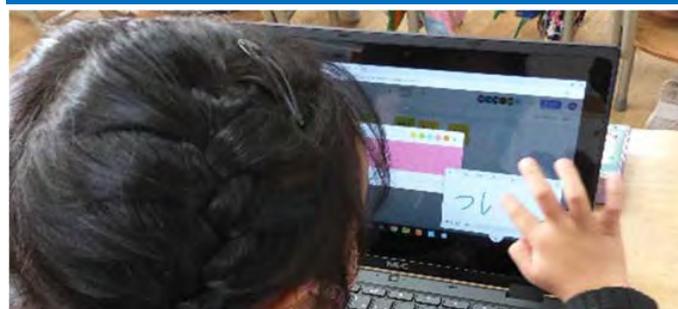
■アドバイザーからのコメント

デジタル付箋を使うと、様々な情報を複数人で効率的に収集したり、簡単に整理したりすることができます。

児童生徒がこのようなツールの使い方を習得することで、様々な教科の学習活動において、よりよく活用していくことができます。自分で考えるためのツールとして、様々な学習の場面で必要に応じて活用することができるようにするための、楽しい体験を重視した練習です。



テーマは「お昼の休憩時間」。作成した付箋をみんなで動かしながら仲間分けを行い、グループごとに名前を付けて情報を整理している様子。



低学年でも手書き機能を活用して入力することができる。

画面表示の工夫

■校種・学年 : 小学校以上

■活用の概要 :

図書やインターネットから集めた情報をまとめる際、ICT端末の画面を二分割したり、ウェブブラウザのタブ機能を活用したりすると、さまざまな情報を参照しやすくなる。

OSのさまざまな機能を知り、活用することで、効率的に学習を進めることができるようになる。

■準備するもの :

- ・ウェブブラウザ
- ・デジタルホワイトボードソフトなど（OS標準）

情報収集に必要な
アプリやソフトを開く



情報を効率的に参照する
工夫を考える

集めた情報を整理したり、関連性を考えたりする場面では、複数の画面を上手に参照することができると作業効率が向上する。最初は2つの画面を見比べる練習をするなど、段階的に使いやすさを工夫できるようにした。



■アドバイザーからのコメント

机の上を整理整頓したり、ノートに情報をまとめるときのレイアウトを考えたりする時のように、ICT端末の画面を分けて操作することで、参照しやすくなります。画面いっぱいに最大化して作業を行う場合、分けて相互に見比べながら作業を行う場合など、目的や課題に合わせて工夫ができるようになると、作業効率がアップします。

ブラウザのブックマークをカスタマイズ

■校種・学年 : 小学校3学年以上

■活用の概要 :

ブックマークは、確認したい情報や必要な情報へのアクセスをすぐ行うために有効である。自分が使いやすいようにさまざまなカスタマイズを加えていくことで、学びに使う道具として愛着をもってほしいと考えた。

児童生徒は、よくアクセスするサイトとして、キーボード入力の練習サイトや、学級の係活動で参考に行っているページ等を登録していた。

- ① 教師のブックマークを見せながら、ブックマークの登録方法や便利さを確認する。
- ② 学級でよく使うサイトを試しに登録する活動を行う。
- ③ どのようなサイトを登録しているのか、紹介し合う活動を行う。
- ④ 定期的に更新を促す。

■準備するもの :

・ウェブブラウザのブックマーク機能

ブックマーク機能
について知る



練習として、よく使う
サイトを全員で登録



使いながら自分流に
カスタマイズ

最初は、とにかくたくさんブックマークしようとする児童生徒もいたが、しばらく使っていくと、本当に必要なもの（よくアクセスするサイト等）を精選し、自分流にカスタマイズしていく様子が見られた。



■アドバイザーからのコメント

児童生徒に、学習するための自分のICT端末であることを意識させるための工夫です。素早く情報を参照したり、ソフトを起動したりすることができるように、自分の使いやすいようにカスタマイズさせることで、よりよい使い方を考えるきっかけになります。児童生徒の活用状況に応じて、それぞれの使い方（ブックマークの活用など）を学級で紹介し合う活動も考えられます。

ローマ字テストとタイピング

■校種・学年 : 小学校3 学年以上

■活用の概要 :

ICT端末を使い始めたときに、ローマ字に自信がなかった児童生徒が「これならローマ字を覚えられるかもしれない!」とつぶやいたことから、自分たちの習熟の程度が把握できるように隔週でローマ字テストを行うことにした。テストは、中身を空白にしたローマ字表に、五十音を書き込むだけのシンプルなものにした。

タイピング練習は、朝の時間(10分)で実施。雨の日の休み時間や学習が早く終わったときなど、隙間時間でも練習できるように声掛けを行った。できることから少しずつ着実に進めていくことで、授業で文具として使えるようになるためのスキルアップにつながった。

■準備するもの

- ・タイピングソフト(ブラウザ上で無償利用可能)
- ・表計算ソフト(OS標準)

タイピングソフト + ローマ字習熟度テスト

あ行	あ	い	う	え	お			
か行	か	き	く	け	こ	きゃ	きゅ	きょ
さ行 (へボン)	さ	し	ず	せ	そ	しゃ	しゅ	しょ
	—	(shi)	—	—	—	(sha)	(shu)	(sho)
た行	た	ち	つ	て	と	ちゃ	ちゅ	ちよ
	—	(chi)	(tsu)	—	—	(cha)	(chu)	(cho)
な行	な	に	ぬ	ね	の	にゃ	にゅ	にょ
は行 (へボン)	は	ひ	ふ	へ	ほ	ひゃ	ひゅ	ひょ
	—	—	(fu)	—	—	—	—	—
ま行	ま	み	む	め	も	みゃ	みゅ	みょ

ローマ字習熟表のシート



朝の時間(10分)を活用してタイピング練習を実施。学習が早く終わったときなどの隙間時間にも進んで練習している。



タイピング力の向上に対する意欲向上

氏名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
16	実測日	8/31	e-typing	9/14	e-typing	9/28	e-typing	10/12	e-typing	11/2	e-typing	11/15	e-typing	11/30	e-typing
17	1	47		82		107		82		107					
18	2	90		91		107		107		107					
19	3	19		82		90		91		90					
20	4	51		97		90		107		107					
21	5	69		83		90		90		107					
22	6	80		100		107		100		107					
23	7	106		107		106		107		107					
24	8	79		90		90		90		107					
25	9	107		107		107		107		107					
26	10	77		102		104		104		106					
27	11	40		77		107		107		107					
28	12	87		80		90		107		71					
29	13	90		107		100		107		107					
30	14	88		106		107		91		107					

表がローマ字テストの結果。

ICT端末使用前は正答率が64.24%だったのが、2週間後には89.6%、1カ月経つと95%以上にまで上昇した。タイピング技能の向上はローマ字学習にもつながる。

■アドバイザーからのコメント

短時間でも毎日練習をする機会をつくることで、児童生徒の文字入力スキルは向上していきます。タイピングソフトを使うことで、段階を追って自力で練習を進めていくことができます。文字入力はICT端末を活用するうえで重要なスキルです。しっかり習得させることが大切になってきます。

ローマ字を学習する小学校3年生以上は、ローマ字入力が可能です。ローマ字を覚えてから文字入力練習を開始するのではなく、文字入力練習をしながらローマ字も一緒に覚えていくことがいいでしょう。この実践のように、記録をとっておくことで、ローマ字の習得率や文字入力スキルの向上が可視化され、児童生徒の意欲につながる効果が期待できます。

隙間の時間を利用してタイピング力UP

■校種・学年 : 小学校3 学年以上

■活用の概要 :

毎日帰りの会で5分間タイピング練習を行っている。最初は視写（練習用タイピングソフトを使用）をしていたが、1カ月ほどで基礎技能が身に付いたので、最近は自分で考えたことを入力するようにしている。思ったことや考えたことを自由に打てるようになることが、児童生徒の自信につながっている。

内容は授業の振り返りや日記、好きなテーマで実施する。

■準備するもの

- ・文書作成ソフト（OS標準）
- ・アンケート機能+表計算ソフト（OS標準）

文書作成ソフトで
タイピング練習

アンケート
機能で提出

表計算ソフトで
瞬時にグラフ化

スキルアップで
意欲向上

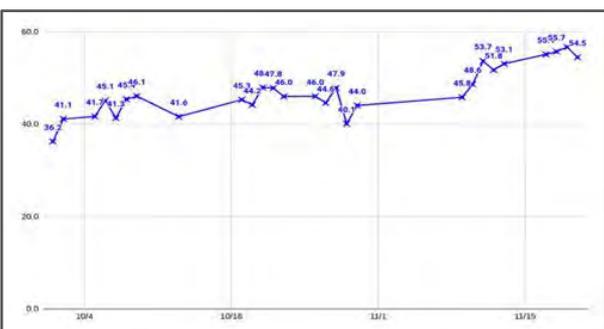


5分間で自分が入力できた文字数をカウントして、表計算ソフトに入力。表計算ソフトに数値を入力するとグラフが作成され、共有できるようになっているため、入力文字数の推移を可視化できる。

文章作成ソフトを使用。毎日続けることで、考えながらタイピングする力が徐々についてくる。毎日の自分の「振り返り」が蓄積されていくので、文字数の増減だけでなく、自分の文章作成力の変容についても振り返ることができる。

9月8日
今日は国語の授業で、たくさんの方が参観に来ました。やまなしの授業では、「五月」と「十二月」のそれぞれにタイトルをつけるときに、ぼくは「クラムボン」とつけたけど、Aくんの考えを聞いて「面白い」と付け替えました。自分だけではわからなかったことも友達の見聞を聞いて意見を深めることができよかったです。

11月20日（金）
昨日は、図工がありました。図工では、読書感想画を書きました。「やまなし」が題名になっていて、私は蟹が（出演）やまなしのことをカワセミだと勘違いしているところを描いています。難しいところは、背景です。光が当たるように、底は薄く表現しました。また、地面を今、灰色にするか悩んでいます。先生、できれば教えて下さい。また、蟹も難しいです。蟹は、赤色なので、真っ赤担ってしまおうと困るので、なるべく薄く書かないといけません。そして、今日は卓球が会えます。卓球では、サーブやレシーブなどの基本練習の他、つつつきやドライブなどの技を教えてください。場所は、体育館です。（の近く）難しいところはありませんが、そういうところで友達と協力しながらやると、絆や笑顔が深まると思います。また、昨日はプログラミングをやりました。プログラミングとは、未来を作る感じですね。動いているmです。（スイッチや電気など。）ですが、体験をするサイトが合ったので、今日はそれをやりました。4まで行きましたが、5はもう難しく、残念でした。また、明日は、習字があります。習字では、一ヶ月に書く字が進みます。なので、正直、嬉しいです。そして、今回gは「希望の朝:」



■アドバイザーからのコメント

朝の会や帰りの会、その他の隙間の時間を利用して、ICTの操作スキルを育成する実践です。まとまった時間をとることができない場合や、教育課程にうまく位置付けることが難しい場合に有効な取組です。

また、毎日取り組むことで文字入力スキルは確実に向上し、その結果、授業での活用が進んでいきます。

毎日の記録を手軽にグラフ化

■校種・学年 : 小学校3学年以上

■活用の概要 :

日々記録されるさまざまなデータを手軽にグラフ化できることがICTの便利なところ。数値が可視化されると、変化の読み取りや把握がしやすくなる。

家庭学習の取組時間をはじめ、学級アンケート、体育の縄跳びの回数、理科の実験結果など、グラフにするとより分かりやすくなる場面を児童生徒と一緒に考えていくことで、情報を見やすく工夫するよさを捉えていくことができる。

■準備するもの :

・表計算ソフト (OS標準)

日々のデータ
を入力



見やすく
グラフ化



グラフの変化等を基に
定期的に振り返り

1月 (睦月)		*数字は任意で			よいよい学び方のためのキロク	
今月の目標		自主学を最近やっていないので、毎日自主学習をやる*			私は、「自主学を最近やっていないので、毎日自主学習をやる*」という目標が達成出来た。	
日	曜日	宿題 (分)	読書 (分)	自主学習 (分)	よかった学び方 (次につながる自分の学び方)	
23	土				今日の自主学習 (辞書機を使った時の感想) のやり方、よかったと思う。それは、はじめ、中、終わりを意識できたからです。	
24	日				今日は、教材で、私が苦手なところがあったところがあったと思う。	
25	月	10	100	30	今日は、新しいところをやりました。その時、キーワードを考えながらやれたところがよかったです。	
26	火	10	90	30	今日は、足し算引き算のひっ算をやった時に、くらいに気をつけたりすることができた。	
27	水	10	30	40	昨日は、足し算引き算をやった時に、気をつけるポイントを書き出し、足し算引き算のひっ算をやった時に、早く、簡単に、正確に出来ました。	
28	木	10	30	30	昨日は、足し算引き算のひっ算をやった時に、早く、簡単に、正確に出来ました。	
29	金	10	30	30	昨日は、足し算引き算のひっ算をやった時に、早く、簡単に、正確に出来ました。	
30	土				昨日は、引き算のやりやすいやり方を考えたから、これからは、この考え方を試してみよう。	
31	日				今日は、6年生へのメッセージを考えよう。その時に、今日のメニューや今日のアイテムなどをつけて考えよう。	
宿題 (合計)		読書 (合計)		自主学習 (合計)		
140		1450		720		

表計算ソフトで情報を入力して、自動で数値が可視化されるようにした。
①数値の選択、②グラフの作成
というように、標準機能の範囲ですぐにできるようにした。



■アドバイザーからのコメント

入力した数値が一瞬でグラフになったり、整理できたりすることが表計算ソフトの便利なところですよ。
グラフの変化などに着目して、今の自分の学習状況や、次にどうすべきかを考えていけるようにすることで、自律的に考えていくことができます。

話し言葉と書き言葉の指導

■校種・学年 : 小学校5学年以上

■活用の概要 :

オンラインで一言日記の活動を行っていたところ、徐々に日記に書かれる言葉が乱れ始めた。そこで、児童生徒自身が言葉遣いについて振り返ることができるように、国語科の学習内容と絡め、話し言葉と書き言葉についてクラスで話し合い、オンライン上のコミュニケーションにおいてふさわしい言葉の使い方について指導を行った。

■準備するもの
・コメント機能

一言日記（共同編集機能）での失敗経験

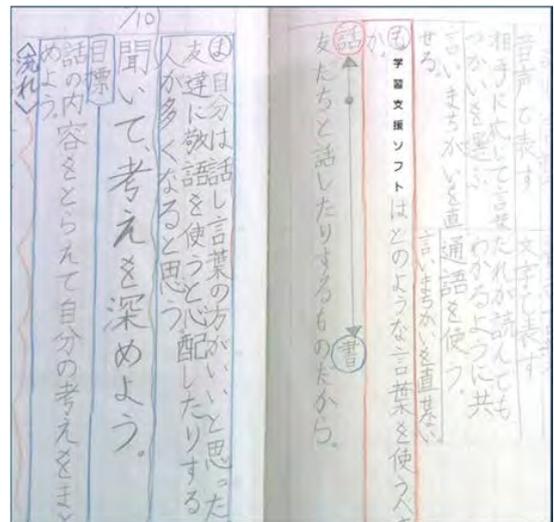


オンライン上で一言日記を書く活動を行った。何も指導をしないと「www」「aaa」「草」などの日記やコメントが書かれた。



児童生徒が定期的に確認している時間割の掲示板に投稿されたコメント。言葉の乱れはほとんどない。

オンライン上のコミュニケーションに関する学び



国語の「話し言葉と書き言葉」の学習において、相手を意識する大切さと「誰が読んでも分かるように共通語を使う」ことについて指導した。

■アドバイザーからのコメント

メディアが変わると話し言葉と書き言葉の伝わり方や印象も変わってきます。

国語の学習の中で、オンライン上における言葉の使い方や表現方法を話題に挙げながら指導をしていくことで、情報モラルとしての指導につなげています。

スピーチ練習に音声認識

■校種・学年 : 小学校5 学年以上

■活用の概要 :

文書作成ソフトの音声認識機能で、自分のスピーチを文字起こしする。個人でスピーチを練習する場面で、ただ繰り返し読むのではなく、言葉をはっきり発音できているかなどをチェックさせることができる。

自分のスピーチがリアルタイムにテキスト化されるので、どの児童生徒も練習に集中して取り組んでいた。

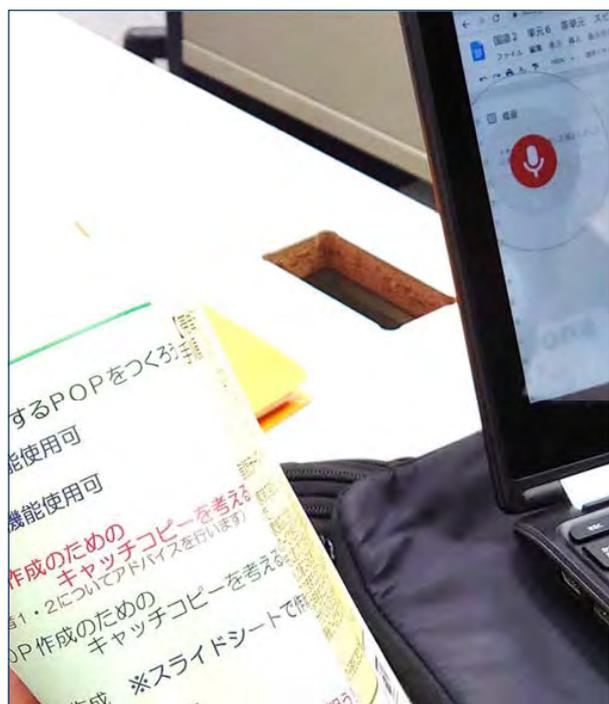
■準備するもの

- ・文書作成ソフト（OS標準）+ 音声認識機能

文書作成ソフト
+
音声認識機能



スピーチ練習のDX
個人学習に対する
意欲喚起



言葉をはっきり発音できているか自分でチェック。



教室内で各々が練習すると声が重なってしまうので、外付けのマイクを使って音声認識させる児童生徒もいた。

■アドバイザーからのコメント

個人でスピーチ練習を行う場面において、音声認識機能を活用して文字起こしすることで、言い間違いを自分でチェックすることができます。まだ原稿が出来ていない場合でも、自分が話そうとしていることを認識させることで、口癖や口頭での説明の表現の違和感などに気付かせることもできます。

オンラインコミュニティへの投稿

■校種・学年 : 小学校5 学年以上

■活用の概要 :

プログラミングソフトのオンラインコミュニティに一人一人がログインし、自分の作品をクラウド上に公開するとともに、友達の作品をよりよくするためにはどうしたらよいかを考えて投稿する活動。

建設的な意見であること、そして、オンラインコミュニティに投稿するということを踏まえて、内容や表現、個人情報の扱い方について理解する。

■準備するもの

- ・プログラミングソフト（ブラウザ上で無償利用可能）

パブリッククラウド上のコミュニティへの投稿



投稿の意義や適切な言動に関する学び

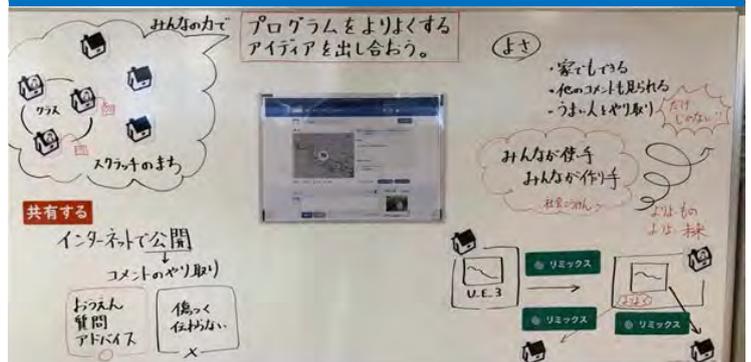


自分の作品をパブリッククラウド上で公開し、作品についてアドバイスを記入する。

「デジタル社会をどう生きるか」という視点を与えることで、プログラムを作る側が具体的に改良できるようなコメントを返すなど、社会貢献的な意味合いもあることに気付かせる。

■アドバイザーからのコメント

閉じられた空間でのコミュニケーションではなく、パブリッククラウド上のオンラインコミュニティへの投稿を通して、投稿する意義や適切な言動について理解させる取組です。大勢の目があるところへ投稿するときに配慮すべきことを踏まえつつ、上手に活用していこうとする態度を育成していきます。



デジタルドリル

■校種・学年：小学校以上

■活用の概要：

1人1台端末の活用においては、自治体や学校によって、デジタルドリルを導入する場合があります。

児童生徒の実態に応じた適切な使用を行うことができれば、子供の学習状況や進捗状況の把握を行うことが容易になり、補充的・発展的な学習を行う場面等において、個別の学習支援を行いやすくなると考えられる。また、子供自身がスムーズに解けた得意な問題やつまづきのあった苦手な問題を把握し、学習の改善につなげる活用も期待できる。

■準備するもの：

- ・デジタルドリル

- ① デジタルドリルを活用する際は、その内容や使用場面を十分検討する（授業の一部、自宅等での学習等）
- ② 子供たちの学習状況を把握し、個別の学習支援につなげるとともに、子供が自ら学習の改善につなげられるようにする

1単位時間におけるデジタルドリル活用の考え方の例

- 教師が単元をデザインする上で効果的な場面において、計画的に活用する。
- 学習指導において補助的役割として、例えば知識・技能の習得や定着の場面で、適切な反復による学習指導を進めるようにする。

導入	展開	終末
学習問題の把握 (一斉)	問題の解決 ・個別(自力解決等) ・小集団や全体等での 考えの交流や練り合い	学習の まとめ (一斉)
		練習 問題 (個別) 5~10分

※ その他、朝学習や放課後等の短時間学習での活用も考えられる。

通常の授業においては、例えば終末段階において学習の習熟度を測る練習問題を解く場面が考えられます。授業時間全体を踏まえつつ、練習問題を解く時間を設定します。

環境が整った際には、朝学習や放課後の授業外の学習や、自宅等に持ち帰って学習をすることも想定されます。また、児童生徒の実態に合わせて、宿題の内容や量を調整することも考えられます。その際、時には取り組む内容、量、時間などの目標を子供が決める機会をつくることも考えられます。

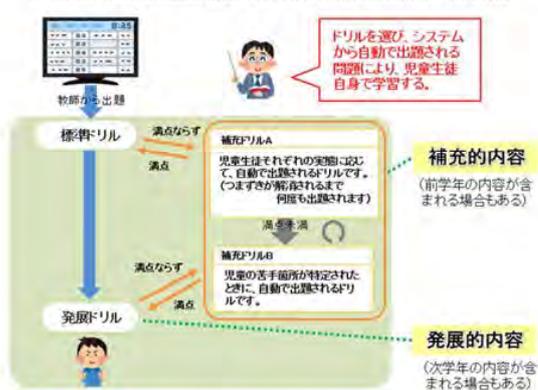
■アドバイザーからのコメント

デジタルドリルのデータ等を適切に活用することで、子供の学習状況を把握し、どの問題で誰がつまづいているのかが分かりやすくなります。

具体的な使い方については、学校や子供の実態に合わせて、いつどのように使用するのか、子供自身が学習の進め方を考えることも含め、指導の効果が高まるように様々な工夫を考えていくことが大切です。

児童生徒の正答・誤答によって、個別に出題されるデジタルドリル機能のイメージ

※ これは一例で、他の機能が搭載されたドリルがあり、活用方法も様々考えられる。



例えば、教師がその時間において達成の目安とする標準的な問題を子供たちの端末に配信します。自動採点機能により、問題に正解すると、より発展的な内容の問題に取り組むことができ、誤答があった場合は、その内容に即して補充的な問題が出されます。システムが正誤の判断によって、より難易度の高い問題を出したり、間違いを重ねることでシステムがつまづきの原因を特定し、それを解決するための新たな問題や解説が表示されたりします。そうした機能を生かしながら、子供自ら学習内容を選べるようにするなどの工夫も考えられます。

家庭でのICT端末の使い方を考えよう

■校種・学年 : 小学校以上

■活用の概要 :

ICT端末は家庭に持ち帰って活用することで時間的・空間的な制約を超えた学びや創造的な学びを広げることができる。一方で、家庭でICT端末を使う際には、使う時間や場所などについて児童生徒と一緒に考える場をもってから使い始める必要がある。

事例では、端末を持ち帰る前に学校で行った指導と家庭へ向けて発信した情報を示している。学校と家庭が方向性を共有し保護者の理解を得ながらICT端末の持ち帰りを進めることで、児童生徒がICT端末の使い方を考え意識して使うようつなげていくことが大切である。

■準備するもの :

- ・ICT端末の使い方について考えるための資料
- ・家庭に向けた便り

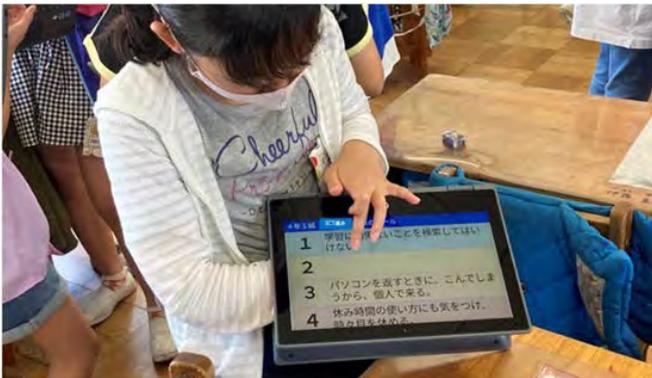
学校で児童生徒が持ち帰って活用するよさや課題を共有



家庭向けの便りで周知とお願い



ICT端末の持ち帰り自分で考えて活用



学校が全てのルールを作って守らせるのではなく、使い方を一緒に考えるような指導が重要。

保護者用

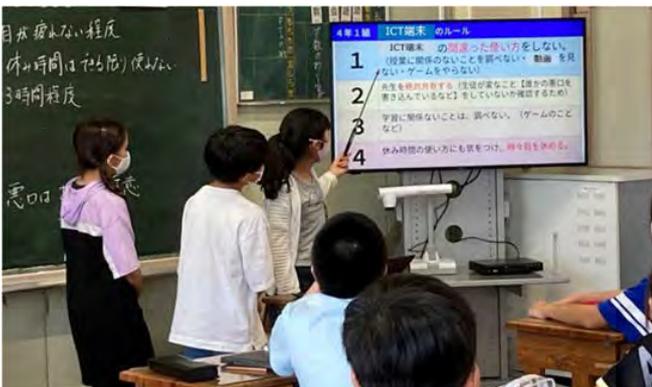
ご家庭で気をつけていただきたいこと②

□ 端末の利用時間等のルールについて

ご家庭で過ごす時間全体の中で、ご家庭で用意したデジタル機器も含めて、端末を、いつどのよう


に使うか、お子様と話し合うことが大切です。

「端末利用に当たっての児童生徒の健康への配慮等に関する啓発リーフレット」
 (文部科学省 令和3年4月)
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_00001.html
 学校と家庭が方向性を共有しながら進めるために、家庭への情報発信は欠かせない。



■アドバイザーからのコメント

家庭は学校に比べて時間や場所の制約がない分、ICT端末の使い方を意識する必要があります。学校でも家庭でもICT端末の使い方を一緒に考えることで、児童生徒が意識して使うことにつながります。こうしたことは、保護者へのお便りなどで繰り返し伝えていくことが大切です。

持ち帰ったICT端末の使い方を考えることは、これからの情報社会を生き抜くための知恵を磨ききっかけにもつながるでしょう。

自分の情報は自分で守る

■校種・学年 : 小学校以上

■活用の概要 :

インターネット上で情報を扱うよさとして、時間的制約を超えて情報を蓄積できるということが挙げられる。写真や動画、ワークシートなどを長期間にわたって収集・保存することにより、学習過程が可視化され、学習の振り返りや目標設定に生かすことができる。

よい面がある一方で、インターネットに公開されたデジタル情報は複製が容易なため、当事者が意図せず残り続ける場合もある。情報を公開する時には、公開してよい情報とは何かを考え、自分の情報を守る意識をもつことが必要である。情報の特性を理解した上で、自ら判断できる子供を育成していくことが大切である。

■準備するもの :

- ・インターネットの特性について学ぶための資料など

インターネットの
特性を知る



ICT端末を使いながら
インターネットの特性を学ぶ



自ら考えて情報を活用
する力を身に付ける

インターネット上の情報の特性 **データを簡単に複製できる**

- ・大量の情報を蓄積できる
- ・繰り返し活用できる
- ・容易に修正ができる
- ・公開された情報、複製された情報は残り続ける

ICT端末を実際に活用しながら情報活用能力を身に付けていくことが重要です。情報の特性を知り、情報と上手に付き合うことで、ICT端末をより活用できるようになります。

いけないと思ったこと 黄色

どうしたらいいか (事実) 青

登録は慎重に

親に相談せずに勝手に登録

個人情報公開してる

親に許可をもらってない

個人情報気をつけて

よくわからないのに登録

無料という言葉に釣られてる

そのサイトはどのようなサイトなのか

本当に登録してもいいの?

親に確認する

情報は公開すると、簡単に複製されアカウントのつられたりするから悪用されちゃうよ。そして、共有されると家、学校も特定され家族にも被害が及んでしまうよ。

情報はすぐに複製されてしまうから悪用されてしまうよ。

情報はすぐに悪用されてしまうから悪用されてしまうよ。

子供たちが学んだことを
まとめた学習シート

知識として学ぶだけでなく、自ら考え行動できるように、より実践的に学んでいます。

■アドバイザーからのコメント

ICT端末を活用しながら、情報社会を生き抜く力を身に付けることは大切です。しかし、自己紹介のデータや写真などは、一度インターネット上に公開され複製されると情報を完全に消すことができません。

それらのデータなどの扱いについては、事前に学んで身に付けた上で情報を活用できるようにしておく必要があります。

情報の特性を理解した上で、出す情報と出さない情報を自分で判断する力を身に付けられるようにすることが大切です。

他人の情報の扱い方を考えよう

■校種・学年：小学校3学年以上

■活用の概要：

インターネットの特性として、たくさんの情報を瞬時に共有できること、空間的制約を超えていつでも世界中の様々な人とつながれることなどが挙げられる。こうした特性を踏まえて新たな学びを創造することができる。

よい面がある一方で、不用意に書き込んだ他人の情報が世界中に公開される場合があることや情報が複製されて広まったり残ったりする場合があることなど、端末を使う前に知っておくべき特性もある。

それらを踏まえ、他人の写真を撮るときや他人の書いたものを引用する際に、それぞれの場面で他人の情報をどのように扱うのかを考える機会を折にふれて設定した。

■準備するもの：

- ・インターネットの特性について学ぶための資料など

インターネットの
特性を知る



情報を扱う際のポイントや
必要な行動を話し合う



特性を理解した上で
実際の場面で情報を扱う



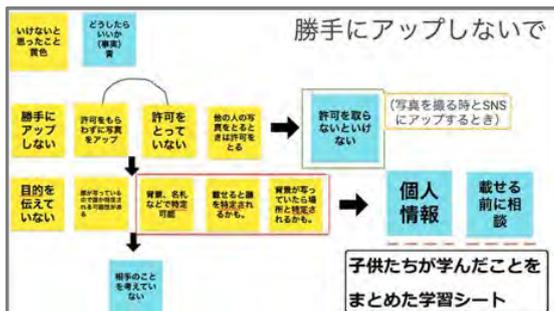
写真や動画を撮るときには、相手に確認をしてから撮影しています。

インターネットの特徴

- ・広がり
- ・情報を得るのが速い
- 送るのも速い
- ・共有がめっちゃめっちゃ
- ・コピーが簡単♪
- 自主学习など...
- ・蓄積 消えない 特殊能力

授業で実際に子供たちが考えたインターネットの特徴(特性)

インターネットには様々な特性があり、特性を知り、適切に活用できるようにすることが大切です。



本事例は小学校3学年以上になっていますが、小学校低学年でも指導は可能です。その場合は、教師が一部の約束を共通事項として伝えるなども考えられます。

■アドバイザーからのコメント

インターネットやICT端末を使わなければトラブルも起きないとする考え方もありますが、これからの社会を生きる児童生徒はインターネットやICT端末と関わりながら生きていくこととなります。そのため、インターネットやICT端末を活用する様々な場面で、他人の情報の扱い方を学んでいくことが求められています。

学校という失敗が容認される環境で、失敗しながら自分も他の人も大切にしている行動を考えていくことは、児童生徒の人生において貴重な財産となるでしょう。

コミュニケーションツール（チャット等）の設定の工夫と指導

■校種・学年：小学校以上

■活用の概要：

チャット機能などのコミュニケーションツールで文字を使ったコミュニケーションを取る場合、表情や細かいニュアンスが伝わりづらい分、やり取りで思わぬ誤解につながる場合もある。

そこで、コミュニケーションツールの活用を始める際に、学校側で各種の設定を確認した上で、児童生徒に投稿等の記録が残ること、相手との文字・絵文字等の受け止め方のズレについて意識し、責任をもって書き込むように指導するとともに、保護者にもコミュニケーションツールでのやり取りを学校が確認すること等の留意事項について事前に周知し共通理解を図った。

なお、コミュニケーションツールの活用等において個人情報を取り扱うことも想定されるため、個人情報保護条例に則っていることを確認した。

■準備するもの：

- ・掲示板機能、チャット機能、コメント機能（OS標準）
- ・オンラインでやり取りをする際の約束

児童生徒の投稿に関する設定の工夫



日常的な活用と継続的な指導、保護者への周知



適切なコミュニケーションツールの活用

工夫例1（削除や編集の設定）

チーム管理者の設定画面

掲示板への投稿やチャットは児童生徒が削除や編集できない設定にし、児童生徒が伝わり方や相手への配慮をもって書き込むように指導する。

工夫例2（ログの確認）

教師がログの確認や復元ができる設定にした上で、その旨児童生徒に伝え、一度投稿した言葉は削除しても残ることの共通理解を図る。

保護者への周知の例

コミュニケーションツールの設定

- ・チームやチャネルは教師のみ作成できます。
- ・プライベートチャットや通話は教師が加わった場合に可能です。
- ・ビデオ会議は教師が開始し、子どもが参加します。

コミュニケーションツールで気を付けること

- ・ビデオ会議やチームへのメッセージの投稿（書き込み）での発言は普段の授業での発言と同じで内容を気付けて発言してください。
 - ・ビデオ会議やチームへのメッセージの投稿で、下のような内容の投稿をしてはいけません。
 - 他の人の悪口、うわさ話やうそ、いたずら、自分や他の人の個人情報（住所、電話番号など）、その他チームのメンバーにいやな思いをさせたり、トラブルにつながりやすいような内容
- ※投稿する前に、その内容に十分配慮する意図から、子どもが投稿したメッセージは自分で直したり消したりできないようになっています。

お便り等でも繰り返し周知し、学校と保護者が協力して見守りながら、児童生徒がコミュニケーションツールでやり取りできるようにした。

■アドバイザーからのコメント

コミュニケーションツールは教師がやり取りの内容を確認できるツールであることや、書き込みのログが残るものであるという認識は、児童生徒がオンラインで発言する際にその内容をもう一度見直すことにつながります。設定については、ソフトによって管理できる範囲が違うので、その点に留意することが必要です。

オンライン上で適切なコミュニケーションを取る態度は、繰り返し指導するだけでなく、その難しさや望ましい態度について振り返り、話し合うことで養われます。適切な使用時間等を含めて話し合う機会を意図的・計画的に設けることが大切です。

整理した情報をもとに自分自身を振り返る

■校種・学年 : 小学校3 学年以上

■活用の概要 :

子供が読書をした時間や内容を記録・保存・整理することにより、自分の読書等の傾向が可視化され、自分自身の活動を振り返ることができるようになった。

情報は表計算ソフトに入力する。表計算ソフトを扱うよさとして、瞬時の計算処理、数値情報の並び替えが容易にできるということが挙げられる。数値を入力することで、合計や平均等を自動的に計算できたりグラフで表したりすることができる。発達段階に合わせて計算式を考えたり、並び替え（昇順・降順）で数値等を整理したりする技能等を身に付けることにもつながった。

整理した情報をクラスメイトと比較したり、過去の自分と比較したりして、子供が自らの読書等を振り返り、今まで読んだことのないジャンルの読書等へつながるよう次の目標設定に生かすことができるようにしている。

■準備するもの :
・表計算ソフト

読書等の記録の
継続的な蓄積



表計算ソフトで
情報を計算・整理



自分の活動を振り返り
取組の改善・次の目標設定

紙での蓄積例	表計算ソフトを活用した蓄積例
自分の読書履歴を 振り返ったメモ	読んだジャンルを降順にし、 振り返る

↑ 月別冊数でグラフ化し、
分析

↑ 本のジャンル別に
グラフ化し分析

グラフから分かった事

- ・小説、文学をたくさん読んでいる。
- ・作者が同じ本を連続読んでいる。
- ・1回読んだことのある本を借りたりしてしまっている。

目標
歴史などの読んだことのない本を読んでいきたい。
自分の読みやすい本を見つけて読んでいきたい。

↑ 自分で作ったグラフから児童が読み取り、
考えた記述

紙に蓄積していた読書の記録を、表計算ソフトに入力し、蓄積する。表計算ソフトに入力することで、数値の並び替えや情報の整理をし、振り返ることが可能となる。

蓄積したデータを自分が振り返りたい視点（冊数、ジャンル等）別に並び替え等を行い、グラフ化する。グラフ化することで自分自身の読書の傾向を可視化することができる。

自分の活動を振り返る際には、次への目的意識をもつことを大切に。計算した数値や整理した情報をもとに自分やクラスメイトの気付きを得るなど、根拠をもって話し合う場面を設定する。

■アドバイザーからのコメント

情報を継続して記録すること、記録した情報を整理する技能等を身に付けることは大切です。また、整理した情報をクラスメイトと比較したり、過去の自分自身と比較したりすることで、自分自身のメタ認知につなげることも大切です。メタ認知というと難しい感じがしますが、先生方が普段からされている「目標設定・実行・評価・改善」の教育活動の流れと変わりないと思います。表計算ソフトを使うことで、自分自身の状況が可視化され、今まで気づくことが出来なかった部分にも子供自身が気付くことができるようになります。読書以外にも家庭学習等様々な活動で取り組める事例でもあります。なお、紙媒体をデジタル化することで教師の印刷等の手間が少なくなり、校務の効率化にもつながります。

ICT端末とノートを組み合わせた活用

■校種・学年 : 小学校3 学年以上

■活用の概要 :

これまでの学習では、児童生徒は紙のノートやワークシート等に考えたことや学んだことなどを記録していた。ICT端末が導入されたことに伴い、文書作成ソフト等を活用して学習の記録をクラウド上に蓄積できるようになった。板書だけではなく、友達の発言、教師の説明、そして写真や図など自ら調べた情報についても併せて記録することで、ICT端末を多機能なノートとして活用することができる。

事例では、児童生徒が考えをまとめる場面において、学習の記録方法としてアナログとデジタルを上手に組み合わせて使っている。学びを通してICT端末の活用方法を自ら選択していくことで、児童生徒の情報活用能力を伸ばすことも意識している。

■準備するもの :

- ・学習支援ソフト
- ・文書作成ソフト・プレゼンテーションソフト等

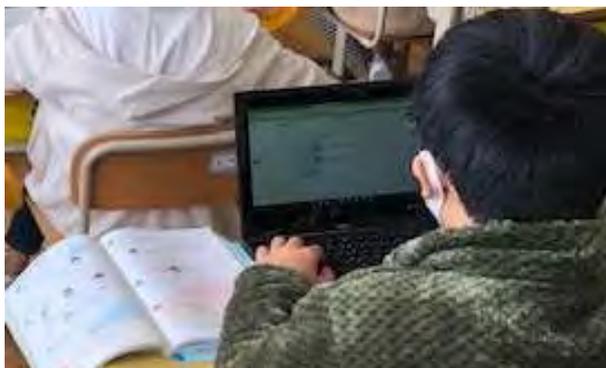
ノートとICT端末を
組み合わせた学び



ノートとICT端末の
特性の理解



自分に合った学び
情報活用能力の育成



ICT端末の文書作成ソフトやプレゼンテーションソフト等を活用して、自分の考えをまとめている。



発想を広げる活動や記録する活動などの学習場面によって、ICT端末・ノートどちらを使うのか事前の教師の指導等も踏まえて子供が選択している。



作図したものをカメラ機能で撮影し、説明を加えてクラウドに保存している。

■アドバイザーからのコメント

ICT端末の扱いに慣れてくると、学びの記録や蓄積ができるようになります。その際には、子供自身がICT端末とノートを使い分けて活用することも大切です。「考える場面では自在に書ける紙がいい」「後で整理し直せるからICT端末にまとめたい」など、子供は双方の特性や自分に合った使い分けについてよく考えています。紙とデジタル双方の良さを生かし、自らの学びに合った方法で上手に使い分けていくことが、これからの時代を生きる子供たちに必要な資質・能力を育むことにつながります。

家庭学習カードのオンライン化

■校種・学年 : 小学校3 学年以上

■活用の概要 :

クラウド上で家庭学習カードを共有。表計算ソフトで家庭学習カードのフォーマットを作成しておき、家庭にいる時間または朝活動を使って、学習の予定、家庭学習の取組時間、一言日記などを児童生徒が入力できるようにしている。

入力後は、すぐに共有化され、教師も確認することができる。確認するための時間が短縮され、児童生徒の学習状況の把握がしやすくなった。児童生徒の取組状況について、コメント機能を使ってなるべくタイムリーにフィードバックできるようにしている。

■準備するもの

- ・表計算ソフト (OS標準) + コメント機能

表計算ソフトで教師と児童生徒が
家庭学習カードを共有



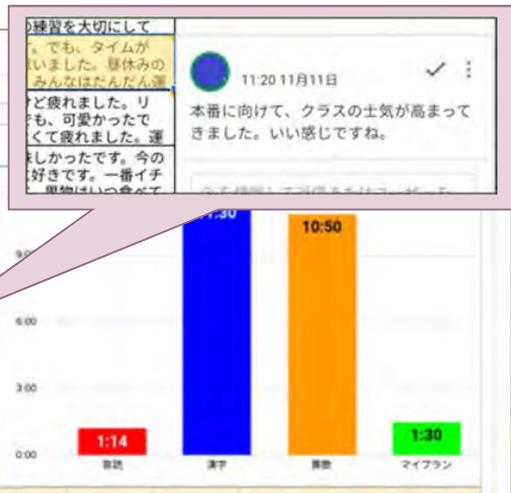
スピーディなフィードバックで
児童生徒のやる気向上

家庭学習カードは、表計算ソフトで作成。家庭学習を行った時間を入力すると棒グラフになるように作成。視覚的に学習時間を確認できる。

カード (時間は半角で入力)

持久走に向けて体力付けを頑張りたい。(具体的にはたくさん走る。)

音読 (:●●)	漢字 (:●●)	算数 (:●●)	マイプラン (:●●)	一言日記
0:05	0:30	0:30	0:10	フェスタ動画をたくさん見ることが出来た。前回のフェスタでは一発合格だったけれど、今回のフェスタでは、自分が苦手なものがたくさん入っていたので、少し心配になりました。でも、これなら、たくさん勉強していつかフェスタに合格したいです。お母さんと、お姉ちゃんとお母さんの12時から夜の10時40分くらいまでずっとテレビを見ていました。お姉ちゃんとお母さんの見たいものを順番からテレビにつなげて見ました。
0:05	0:30	0:30	0:10	今日は、リレーでタイムが短縮したので良かったです。バトンパスのミスなども無く出来ました。これからの練習や、本番でもバトンパスをミスなくして一位になりたいです。
0:05	0:30	0:30	0:20	今日は、六時開演が体育ではなくて学年集会になりました。やられた人はとても可哀想だと思いました。やってしまった人もなんらかの気持ちがあってやってしまったと思います。部活では、全員でリレーの練習をしようとしていましたが、練習の別冊があったので今日の体育では、体育を見学した人や早退してしまった人がいたので、急遽練習の前の時間に決めました。実際にリレーをしてみて、結果は二位だったけれど協力して頑張れたかと思っています。これからの練習が本番に繋がっていくので毎朝練習に参加したいです。
0:05	0:30	0:30	0:20	今日はピアノがありました。そして家に帰って新だったゲームをしました。ゲームは楽しいです。何時でもやっています。眠つぶしに最適なものは私の中ではゲー



印刷・集める・配るなどの作業が削減されるだけでなく、教師は児童生徒の取組状況をいつでも確認・評価することができます。

■アドバイザーからのコメント

オンラインで配信することで、家からでも学校からでも入力や確認ができます。もちろん教師も児童生徒の取組状況をいつでも確認することができ、コメント機能を使って評価や支援を行うことができます。

また、表計算ソフトに入力していくことで、表計算ソフトの機能を理解し、データを取り扱う他の学習活動でも活用ができるようになっていきます。

「朝ノート」で健康観察

■校種・学年 : 小学校3 学年以上

■活用の概要 :

朝の会の健康観察の際に、表計算ソフト等を使って自分の体調等について簡単に報告し合う活動を行っている。

自分の健康状態のほか、昨日の報告をしたり、教師や友達へのメッセージを書いたりする児童生徒もいる。書き込んだ内容は即時全員に共有されるので、互いにコメントをつけるなどしてコミュニケーションも活発に行っている。

ただ自分の状態を書くのではなく、友達のコメントを読むことで、クラスメイトとの距離が縮まる。普段あまり話をする事のない人の「朝ノート」にコメントをしたり、ということも。

■準備するもの :

・学習支援ソフト

※表計算ソフト等（OS標準）で同時編集することで、同様の実践は可能

登校したら電源
入れてログイン



配信された表計算ソフトに
コメントを入力



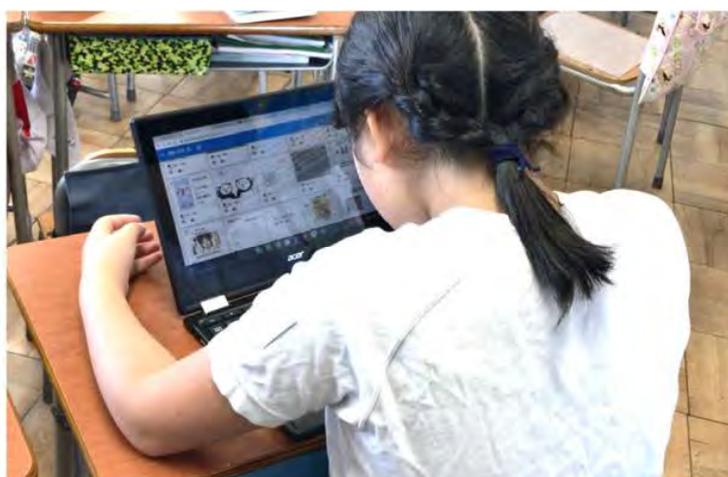
瞬時に教師と
児童生徒が共有



“つながる”
を実感



児童生徒の様子を見ながら教師もコメントを書き込みます。



自分の書き込みが終わったら友達の書き込みを見に行き「いいね」をしたり、コメントをつけたりします。

■アドバイザーからのコメント

朝の健康観察の場面で活用することで、毎日自分のIDでログインし、ICT端末を操作する機会ができます。各種ソフトの操作方法や文字入力に慣れる機会としても有効です。仮に、オンライン授業など、家庭からアクセスする場合でも同じ方法で実施できます。

取組状況をすばやく把握して個別サポート

■校種・学年 : 小学校以上

■活用の概要 :

教師用の端末画面に、児童生徒が学習に取り組んでいる画面を表示させている。学習の進捗状況や、取組状況を把握しやすくなり、より効率的に児童生徒の実態を把握することができるようになった。机間支援がしやすくなり、つまずいている児童生徒や困難さを感じている児童生徒への個別の声かけがスムーズに行えるようになった。

■準備するもの :

- ・学習支援ソフト (OS標準)

教師用端末で、
児童生徒の画面を確認



つまずいている児童生徒を
個別サポート



全体発表では
意図的な指名に活用



教師用端末から見る事ができる児童生徒の取組状況。児童生徒の取組状況(画面)は随時更新されるので、「いつ声をかけるか」「声をかけないで見守る」といった判断がしやすくなる。



一人で考えさせる場面、全体で意見を共有させる場面、いずれにおいても児童生徒の取組状況に応じた支援を行うことができる。



■アドバイザーからのコメント

児童生徒の学習状況を素早く把握するための有効な活用方法です。学習課題への見通しをもつことができているか、自力解決の際に大きな困難さをもったまま時間が過ぎていることはないかといった、児童生徒のつまずきを発見しやすくなることに加え、学級全体に広めたいアイデアの共有や授業でのよい気づきを把握することもスムーズになります。児童生徒の表情や、一人一人の特性に応じた声かけと合わせることで、よりよい指導につながります。

自分だけのスライドと共有するスライドの使い分け

■校種・学年 : 小学校2 学年以上

■活用の概要 :

共同編集機能は、みんなで考えを共有できる反面、見たくなくても友達の回答が見えてしまうといった場面が出てくる。

そこで、自分でじっくり考えさせたい時は、配信したひな形の学習カードを一人一人がダウンロードして学習を進めるようにしている。

じっくり考えたあとは、共用のフォルダに投稿し、みんなで確認ができるようにしている。場面に応じてダウンロードするか共有するかといった視点で教材準備を進めることができている。

■準備するもの :

- ・プレゼンテーションソフト (OS標準)
- ・ファイル共有機能 (OS標準)

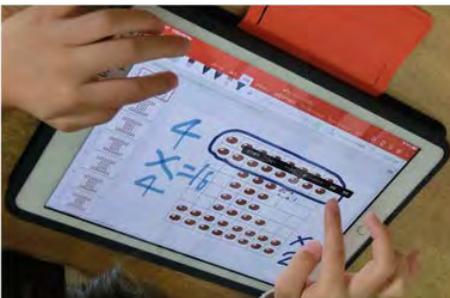
ファイル共有機能で
テンプレートを配信



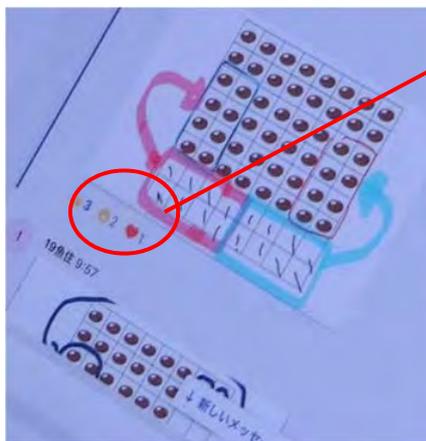
スライドをダウンロード
非共有で個人作業



自分のスライドを
クラス全員に共有し
考えを広げる



ダウンロードしたスライドを複製して、自分の考えを書き込んでいく。思い付くアイデアを次々と書き込んでいく。



共有されたスライドで、よい考えには様々な「アクション」が付く。自動で自分のスライドに「いいね」が付いていくと、児童生徒自身も自分の考えに自信がもてるようになる。「いいね」が付いたスライドについて、スライドのよさを問い返すと、具体的な理由を考えさせることもできる。



考えを書き込んだスライドを選んで共有したり、友達のスライドを確認したりする。

■アドバイザーからのコメント

授業づくりの第一歩と考えれば、①授業全体ではなく、学習活動の一部に着目してICTを活用している点、②どの教科でもできそうな汎用的なICT活用法で児童生徒と一緒に挑戦している点、③試行錯誤や創意工夫による改善を繰り返し図って自分の授業スタイルにしようとしている点などで、優れた事例と考えられます。

翻訳機能を使ってサポート

■校種・学年 : 小学校以上

■活用の概要 :

日本語の指示や発問、資料提示などをさまざまな国の言葉で翻訳する機能を活用している。

今までは個別に、教師が分かりやすい日本語で言い直したり、伝え直したりしていたことも、すぐに伝えることができ、児童生徒自身が学習課題を自分なりに理解するための機能として活用できるようになってきた。

■準備するもの :

- ・翻訳機能（OS標準）

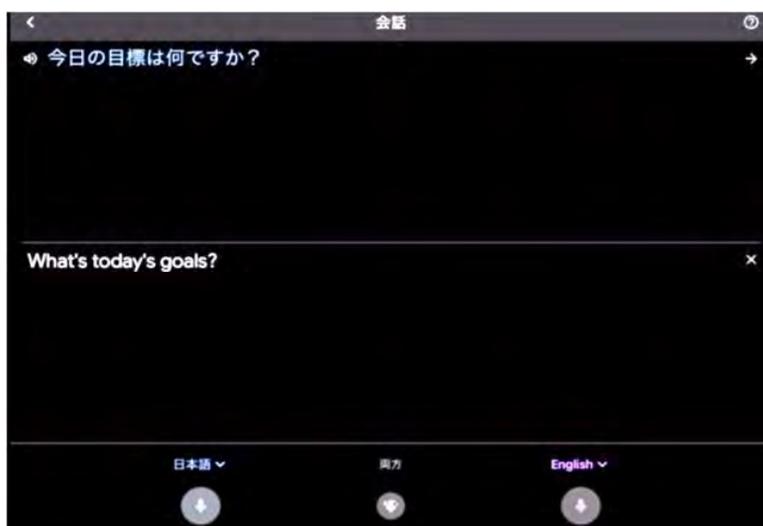
日本語での指示や
発問を自動翻訳



効率的かつ正確な
意思疎通が可能に



児童生徒同士の
コミュニケーションの活発化



翻訳画面には、日本語と外国語の両方が表示されるようになっており、マイクボタンを押すと、音声で伝えることができる。この機能を活用することによりスムーズなコミュニケーションができるようになった。



児童生徒同士でもこの翻訳機能を活用し、主体的に自分の意見や考えを伝え合う様子も見られるようになってきた。

■アドバイザーからのコメント

どの児童生徒にも指示や発問、説明等が伝わるようにするために有効な活用方法です。しっかり伝えることで、児童生徒も自信をもって学習を進めることができます。日本語のニュアンスが伝わりにくい時には、何が分からないのかを、外国語を日本語に翻訳する機能も活用してコミュニケーションをすることもできます。

中学校教師による 小学校の学習の遠隔支援

■校種・学年 : 小学校以上

■活用の概要 :

小学校の総合的な学習の時間での実践。

プログラミングソフトを使って、初めてのプログラミング学習を行うにあたり、専門知識や技能を有する近隣中学校の技術家庭科教師とウェブ会議でつなぎ、ソフトの使い方やプログラミングの手順について、遠隔支援を行った。

■準備するもの :

- ・ウェブ会議ソフト
- ・プログラミングソフト（ブラウザ上で無償利用可能）

近隣の中学校教師
との連携



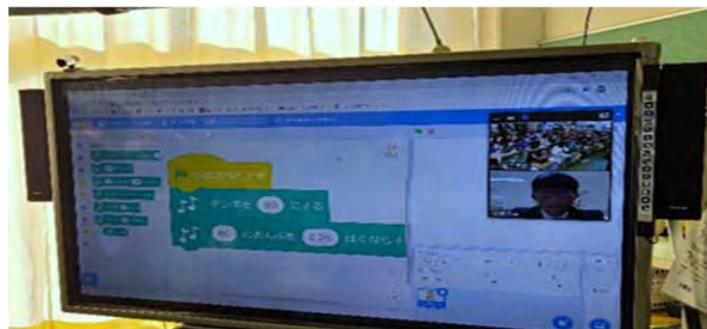
ウェブ会議による
遠隔支援



・効率的な学習指導
・興味関心の向上



中学校教師とは事前に指導計画を共有し、授業時間に合わせてウェブ会議に参加してもらう。大型ディスプレイの上にウェブ会議用のカメラを設置し、教室全体を俯瞰できるように準備した。



ほとんどの児童生徒にとってプログラミングの学習は初めてであったので、中学校教師の操作するスクリプトエリアを大きく映し、スモールステップで指導してもらった。



中学校教師が遠隔で一斉指導、学級担任は机間巡視しながら個別支援。うまく役割分担を行うことで、45分の授業でほとんどの児童生徒が自分のプログラムを組むことができた。

■アドバイザーからのコメント

オンラインで小中連携を図り、児童生徒の学びを深めることができる授業の形です。

学習を進める中で出てきた疑問や考えを外部の専門家に直接聞くことができる場合は、とても貴重です。また、学習を通して学んだ成果を聞いてもらい、意見をもらうことも学びを深めることにつながります。普段は聞けない専門的な話を聞くことで、児童生徒の興味関心が高まり探究的な学びを展開することにもつながります。

連絡帳を書こう

■校種・学年 : 小学校以上

■活用の概要 :

これまで、児童生徒への連絡事項（翌日の時間割、宿題、持ち物等）の伝達は、前日までに教師が必要事項を黒板に書いておき、朝の時間のうちに児童生徒が自分の連絡帳に書くという運用を行ってきたが、1人1台のICT端末の導入を機に、クラウド上の掲示板を活用するようになった。

板書の手間が削減されただけでなく、より効率的な情報伝達を行うことができるようになった。

■準備するもの :

- ・学習支援ソフト（OS標準）

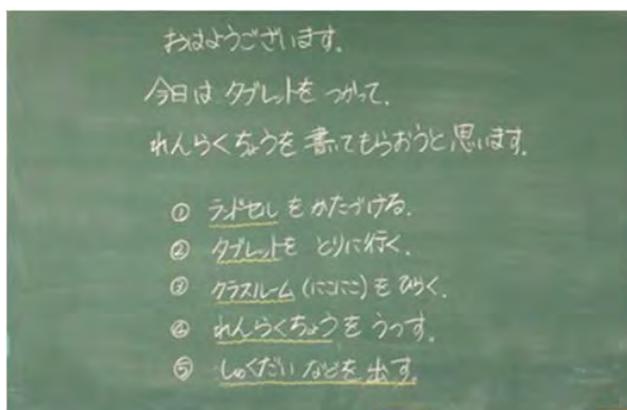
翌日の連絡事項をクラウド上にアップ



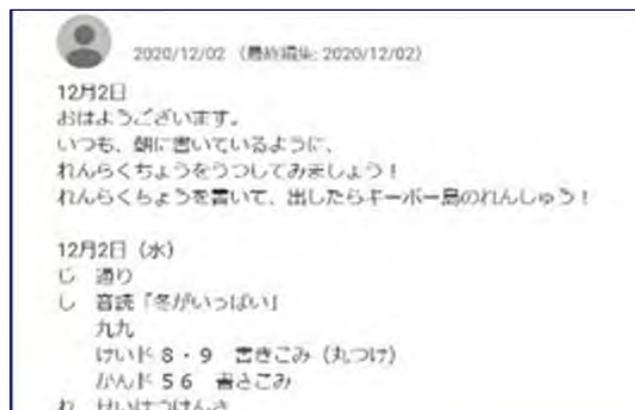
・随時追加、修正が可能
・いつでも閲覧可能



端末を家庭に持ち帰れば連絡帳自体が不要に



初めてクラウド上の掲示板の内容を連絡帳に書かせるときは児童生徒が戸惑わないように、手順を示しておいた。



連絡帳に書く内容だけでなく、児童生徒へのメッセージも残せるので、板書による伝達よりも効果的である。

■アドバイザーからのコメント

これまで、前日の放課後に教師が翌日の連絡事項を黒板に書いておき、朝の時間を使って児童生徒が連絡帳に書き写していました。当然のことながら、変更があると、朝急いで教室に行行って書き直すことも…。しかし、事例のようなクラウド活用をすることで、教師はいつでも書き直すことができ、児童生徒も時間の都合に合わせて、いつでも内容を確認できるようになります。

また、今後、ICT端末を家庭に持ち帰ることになれば、連絡帳に写す作業もなくなり、掲示板の連絡事項を見て直接、宿題や明日の準備をすることになります。ICT端末の導入期の活用としてよい実践事例です。

学びの足跡を共有

■校種・学年 : 小学校以上

■活用の概要 :

板書を学習のまとめり毎に撮影し、学びの足跡として蓄積している。授業全体を見直したり、学習内容のつながりを見いだしたりするときに有効な材料となる。

- ① 配信用のひな形プレゼンテーションを作成し、児童生徒に送信する。
- ② 撮影した板書画像を貼り付け、ひな形プレゼンテーションに追加していく。
- ③ 撮影した順番が分かるように、更新順が新しいものを1枚目にする。

■準備するもの :

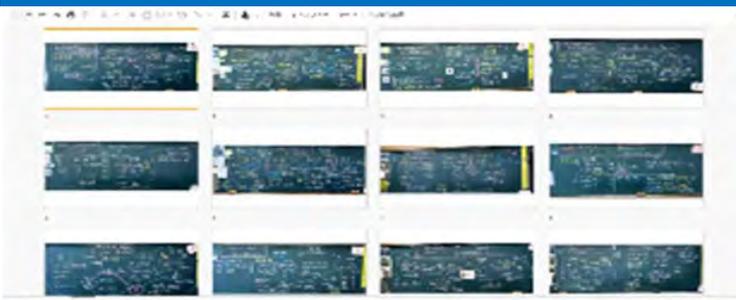
- ・カメラ機能 (OS標準)
- ・プレゼンテーションソフト (OS標準)

授業の板書を撮影し
画像を蓄積

プレゼンテーションを配信

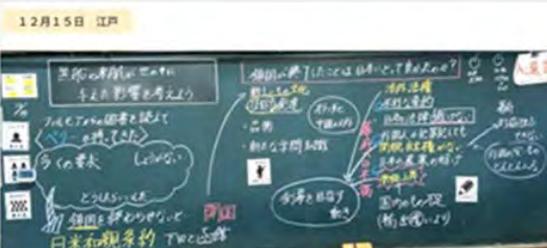
学習の振り返り
などに活用

プレゼンテーションを配信する際には、1ページ目に最新のものが提示されるようにすることで、授業のまとめりやつながりが確認しやすくなる。



授業の振り返りや、まとめの際に閲覧できるようにする。児童生徒が、学びの足跡として整理していく活用も考えられる。

プレゼンテーションに日付を付けて、検索しやすくする工夫も効果的である。



■アドバイザーからのコメント

黒板には、児童生徒と教師のやりとりや、課題に対する意見や考え、学習の流れ、まとめなど、様々な授業の記録が記されています。学習を振り返る際に、または単元等をまとめる際に、このように板書を撮影した画像を使って記録を蓄積しておくことは有効です。最初は写真を撮影しても、どのように分類すればよいか迷うことがあります。導入初期は、教師からあらかじめひな形プレゼンテーションを配信し、どこに保存していくのかを分かりやすく示すことも効果的です。

また、保存した写真は、例えば単元の学習をまとめる際に活用できるようにするといった工夫が大切です。

部活動連絡のオンライン化

■校種・学年 : 中学校以上

■活用の概要 :

これまで部活動の連絡は校内掲示板や電話で行い、予定表を紙で配布していた。学習支援ソフトの掲示板機能やコメント機能を活用することによって、生徒がICT端末を確認すれば、いつでもどこでも連絡事項を見られるようになる。また、教師にとっては電話連絡や印刷がなくなり業務軽減に繋がる。グループには管理職を登録し、部活動の様子や連絡事項を随時共有できるようにしている。

■準備するもの :

- ・学習支援ソフト（OS標準）の掲示板機能・コメント機能
- ・文書作成ソフトや表計算ソフト（OS標準）

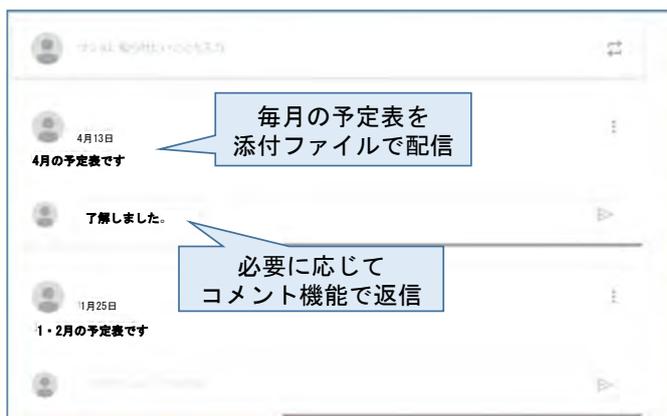
部活動ごとに
グループを作成



顧問が連絡
事項等を配信



生徒がいつでもどこでも
連絡事項を確認することができる



管理職をメンバーに入れておくことで情報を共有できる。

毎月の練習予定表や連絡事項などの情報をグループに向けて配信する。

緊急の場合には電話等の連絡手段も併用している。

■アドバイザーからのコメント

学習支援ソフトの掲示板機能を効果的に活用している事例です。これまで校内掲示板や電話で伝えていたことをデジタル化することで、顧問と生徒が効率的に連絡をとることができます。さらに、紙の便りを配布して伝えていた練習メニューや予定表、変更の連絡なども瞬時に配信することができます。

ノートのデジタル化で、即時のフィードバック

■校種・学年 : 小学校以上

■活用の概要 :

これまで、教師がノートを回収して児童生徒の学習成果を確認する場合、返却が翌日になるなど、即時のフィードバックを行うことが難しいことがあった。そこで、教師が文書作成ソフトでテンプレートを用意したり、学習支援ソフトの提出機能を活用したりして、まとめの段階のノートをデジタル化して児童生徒と共有するようになった。

教師が手書き機能やコメント機能を活用し、即時のフィードバックを行った。児童生徒は、取組に対するコメントが得られることでモチベーションが高まり、より熱心に取り組むようになった。

さらに、ノートを学級や学年で共有し児童生徒同士でも見られるようにした。児童生徒が多様な考えやまとめ方を互いに見ることができ、友達のよい取組を取り入れたり、自分のノートのとり方に気付いたりすることや、モチベーションを維持しながら学習に取り組むことにつながった。

■準備するもの :

- ・文書作成ソフト
- ・学習支援ソフト

ノートのデジタル化と共有 即時のフィードバック

児童生徒同士の ノート共有

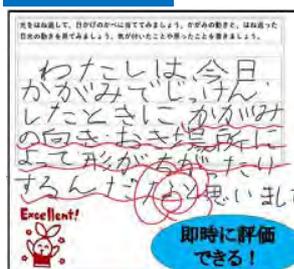
モチベーションの向上 まとめる力の向上

教師と児童生徒のノート共有

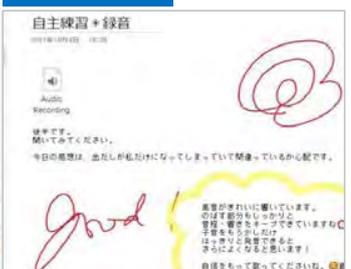


児童生徒が取り組んだノートはファイル共有機能で教師側でも見ることができるようにした。教師は画面でノートの内容を確認し、フィードバックを行った。

小学生のノート

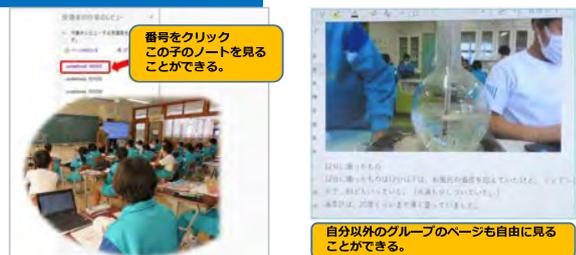


中学生のノート



はじめは教師が手書き機能やスタンプを使ってフィードバックを行うことで、モチベーションの向上を図った。児童生徒が慣れてくると、音声や動画を挿入するなど工夫したノートが見られるようになった。教師も文字入力と手書きを組み合わせコメントしている。

児童生徒同士のノート共有



ノートを学級や学年で共有することで、他の児童生徒の作成物を見ることができるようにしている。他の人の考え方やノートのまとめ方を知ることができ、自分のノートへの反応も得られるため、まとめる力やモチベーションの向上につながった。

■アドバイザーからのコメント

児童生徒と教師のノートのやり取りは、回収・コメント・返却に時間がかかります。ノートをデジタル化して共有すると、教師が書き込んだコメントは即時に反映されるため、児童生徒はすぐにフィードバックを得ることができます。ここでは、まとめの段階で共有している事例として紹介していますが、実際の授業では各自が作業をする段階から共有することも多いでしょうし、もちろんそのような活用も可能です。

また、共有したノートは児童生徒が互いに参考にしたたり、コメントやアドバイスを交わしたりして、学習意欲の向上を図ることにもつなげることができます。

ノートのデジタル化は、教師がデジタルを活用して児童生徒のモチベーションを高める効果的な方法の一つと言えるでしょう。

共同編集機能で進捗を見える化

■校種・学年：小学校以上

■活用の概要：

共同編集機能を使えば、教師は、児童生徒一人一人の考えや、学習の進捗を把握しやすい。これまでは学習課題や発問に対して思ったことや考えたことを、多くの時間をかけて発表させていた。その代わりに端末を使って考えや意見を入力させると、教師は入力された内容を一覧で確認できるため、時間を短縮することができる。

また、児童生徒も他の児童生徒が入力している状況をリアルタイムで確認することができるので、学習活動の「足場かけ」になるなど児童生徒にとってもメリットがある。

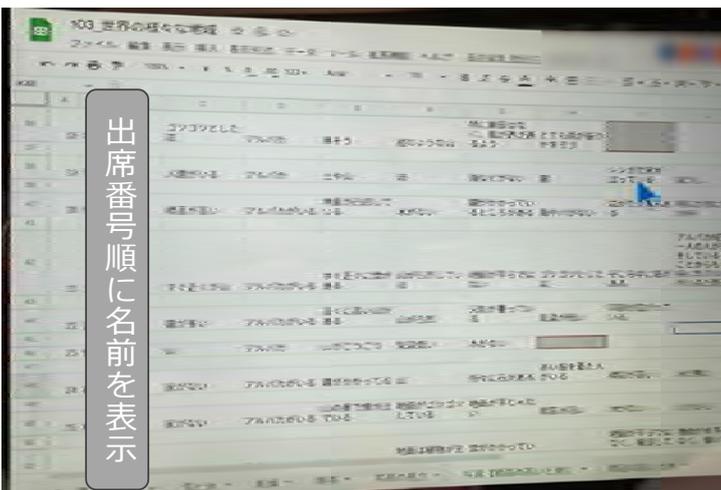
■準備するもの：

- ・表計算ソフト（OS標準）

共有されている表計算ソフトに、児童生徒が意見を入力

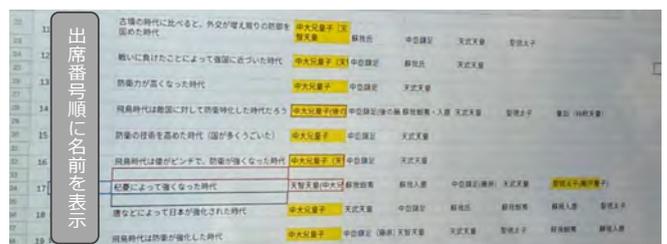


教師用端末から全員の意見を把握し、個別の支援や次の発問につなげる



出席番号順に名前を表示

名前の横に、授業の課題に合わせたコメントを各自入力していく。リアルタイムに意見が反映されるので、児童生徒の実態が把握しやすい。一行おきに入力するようにしておく、誤って友達の考えを消してしまうことも防ぐことができる。



全員の意見を把握できることで、次の発問や展開を考えることにもつながる。



■アドバイザーからのコメント

共同編集機能を上手に使えば、教師がすべての児童生徒の「途中」の様子を把握でき、一人一人に合わせた指導を行いやすくなります。時間短縮にもなり、活動の質や量の確保にもつながります。児童生徒は、友達の記述を参考にすることができるので、自分の考えをさらに深めることもできるでしょう。StuDX Styleの「職員同士でつながる」事例（5-⑥,5-⑦）を参考に、まずは教師自身が体験してみることも大切です。

動画コンテンツの視聴

■校種・学年 : 小学校以上

■活用の概要 :

インターネット上には授業の様々な場面で活用できる動画コンテンツ（例えば「NHK for School」など）がある。中には、ワークシート等がセットで掲載されているものもあり、授業計画を立てる際の参考にすることができる。

児童生徒は1人1台端末を活用することで、動画を必要なところで止めたり、繰り返し視聴したりすることができ、個別の課題や興味・関心に応じて学習を進められる。

動画コンテンツを授業の事前課題として視聴したり、家庭学習で授業の予習や復習として視聴したりすることも可能である。

■準備するもの :

動画のURL、ワークシート等

動画コンテンツ「NHK for School」 <https://www.nhk.or.jp/school/> (令和5年7月)

事前に動画を視聴し、クラウド上のワークシート等に気付いたことを入力する

視聴した内容を基に授業で話し合う

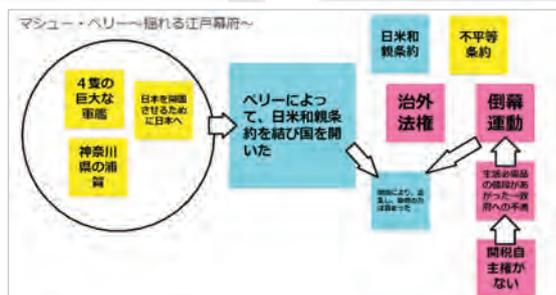
復習等のために視聴する



児童生徒は家庭で動画を視聴し、クラウド上にあるワークシート等に、気付いたことを入力する。ワークシートは、クラウドで共有されているので、教師だけでなく児童生徒もその内容をいつでも確認することができる。また、児童生徒は友達が入力した内容を参照しながら取り組むことも可能である。

■アドバイザーからのコメント

クラウド上でURLを共有しておくことで、児童生徒はいつでも動画を見ることができます。事前に動画を視聴してから授業に臨むことで、考えたことを話し合ったりまとめたりする時間を増やすことができます。その際、視聴しながらキーワードを挙げたり、途中で止めて要点をまとめたりする等、動画を視聴する方法についての指導も重要です。



動画のURLやワークシート、授業に関する情報等を共有しておくことで、教師が説明する時間を短縮でき、児童生徒が考えをまとめたり、表現したりする活動を充実させることができる。



予習や復習として家庭学習で動画を活用すると、児童生徒の学習進度や理解度、興味・関心に応じて視聴することができる。

短時間の動画コンテンツを共有

■校種・学年：小学校以上

■活用の概要：

学習で使用する器具や機器の使用方法を学んだり、対象の動きを注意深く観察したりする場合は、クラウドを活用して、動画を児童生徒と共有する。児童生徒は、動画を途中で止めて視聴したり、繰り返し視聴したりできる。

インターネット上には授業で活用できる動画コンテンツが多数あるが、児童生徒の実態に応じて、オリジナルの動画の作成が有効な場合もある。例えば、単元の始めに指導する事項のうち、単元を通して活用する内容について、児童生徒が繰り返し視聴できるよう、短時間の動画コンテンツを作成し、共有することも考えられる。

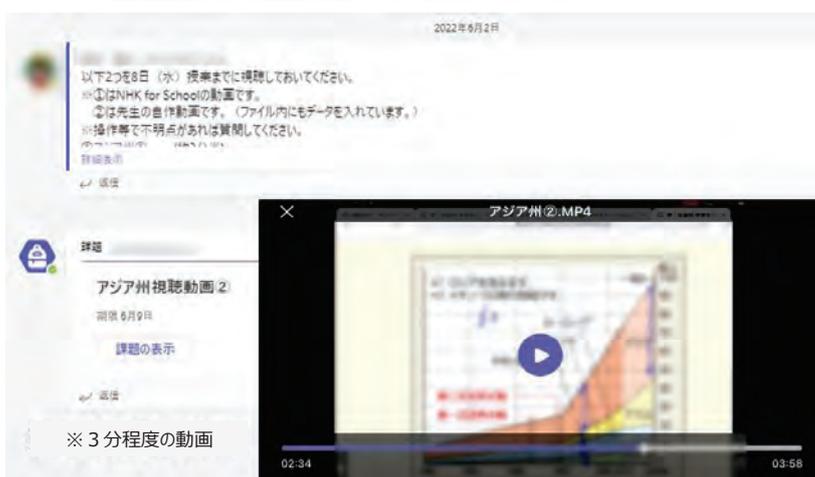
■準備するもの：

児童生徒と共有する動画

教師は単元の始めに、動画を児童生徒と共有する



児童生徒は、自分のペースやタイミングで動画を視聴する

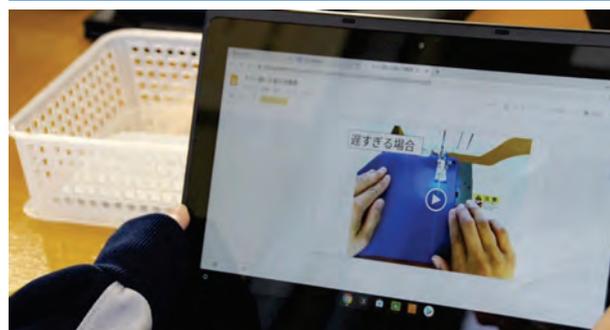


④ ミシンの縫い方をイメージしよう

ミシン縫いについて、どのスピードで縫いますか、確かめてみよう。



動画をクラウド上に保存する際は、児童生徒がスムーズに情報を探ることができるよう、その動画の内容がわかるファイル名にするなどの工夫が必要である。



口頭での説明や、一度きりの演示だけでは児童生徒にとって分かりにくいこともある。短時間の動画コンテンツを共有しておく、児童生徒は何度も見直すことができる。

学習内容の確実な定着を図るために、説明動画をクラウド上で共有することで、児童生徒は一人一人に応じたタイミングで動画を見ることができる。

■アドバイザーからのコメント

2-④「動画コンテンツの視聴」の事例同様に、児童生徒が自分のペースやタイミングで動画を視聴できることが重要です。単元が始まる前に共有しておく、予習として動画を視聴することもできます。オリジナルの短時間の動画コンテンツを作成する場合は、撮影や編集に時間をかけすぎないこともポイントです。端末のカメラ機能で撮影した動画をそのまま使用することもできます。

MEXCBT（メクビット）の活用

■校種・学年：小学校以上

■活用の概要：

文部科学省ではMEXCBT（メクビット）の開発・展開を進めている。
MEXCBTには、様々な教科の問題や動画等を活用した「CBTならではの」の問題等が掲載されており、授業中、朝学習、家庭学習など多くの場面で日常的に活用することができる。

※MEXCBT（メクビット）とは、国や地方自治体等の公的機関等が作成した問題を活用し、オンライン上で学習やアセスメントができる公的CBT（Computer Based Testing）プラットフォーム「文部科学省CBTシステム（MEXCBT：メクビット）」である。

■準備するもの：

- ・ウェブブラウザ（OS標準）、学習eポータル標準準拠ソフトウェア



文部科学省CBTシステム（MEXCBT：メクビット）について https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/mext_00001.html

教師は、児童生徒に問題を配信する



児童生徒が解答を終了すると、教師・児童生徒ともに、即時に結果を把握することができる



教師は児童生徒の学習状況を確認し、個別の支援や授業づくりに生かすことができる



【慣れる】動画を使った練習問題

問題の名称
入門問題
全国学力・学習状況調査
中学校卒業程度認定試験
高等学校卒業程度認定試験
全国学力・学習状況調査を題材とした動画問題
PISA（国際学力調査）の公開問題（2015、2018）
情報モラル学習問題
千葉県作成「ちばっ子チャレンジ100」「ちほのやる気学習ガイド」
山口県作成「やまぐち学習支援プログラム」
さいたま市作成「基礎学力定着プログラム」
若手県作成「若手県学習定着度状況調査」「若手県中学1年生英語確認調査」
幸手市作成「パワーアップシート」「確認テスト」
実用英語技能検定
実用数学技能検定
日本語学能力検定
テスト作成サイトで教員等が作成した独自問題

【使う】MEXCBT搭載問題一覧（令和5年6月時点）



【チャレンジ】PISAの問題

音声を記録する、選択肢を並び替える、動画を見るなど、「CBTならではの」強み・特性を生かした問題を解くことができる。また、家庭学習の課題としてもMEXCBTを活用することが可能であり、教師は随時進捗を確認することができる。

学校種別や教科、問題の種類等から必要に応じて問題を選択することができる。問題は約40,000問（R5.6月時点）あり、「全国学力・学習状況調査」やPISA、自治体作成問題等が搭載されている。児童生徒は、自分自身で解答履歴を確認できるため、学習状況に合わせて自ら学習を調整することにつながられる。

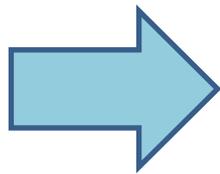
■アドバイザーからのコメント

MEXCBTを活用することで、教師は児童生徒一人一人の学習状況を確認することができるだけでなく、採点や印刷、問題冊子の配付・回収等を行う必要がないため、業務軽減にもつながります。

単元（授業）の学習内容を確認するための問題として活用したり、定期テスト等に活用したりする事例もあります。どのような問題が搭載されているのかを確認し、実態に応じて活用してみてください。

慣れる・つながる活用事例 一括版

(令和5年12月18日時点)



続きは[こちら](#)から

3_ 子供同士がつながる

4_ 学校と家庭がつながる

5_ 職員同士でつながる